

小橋工業(株)のホームページ(以下、弊社サイト)においては、カタログ・取扱説明書・パーツリスト等の電子データの閲覧、ダウンロードのサービス(以下、本サービス)をご提供しております。

本サービスをご利用の際には、以下の注意事項をご確認ください。

電子データの取扱いについて

電子データの内容について

- 本サービスにおいては、弊社製品のカタログ、取扱説明書、パーツリスト等、製品に関する全ての印刷物を網羅するものではありません。
- カタログ、取扱説明書、パーツリストの内容は、製品の仕様変更などにより、予告なく変更される場合があります。その為、弊社サイト内に掲載される電子データの内容は、販売店等で配布、掲示されるカタログ、製品購入時に同梱する取扱説明書、印刷物として存在しているパーツリストの内容とは異なる場合がございます。

表記内容は、発行当時の情報であり、弊社純正部品の名称、小売単価、各営業所の名称、所在地などの情報が現在と異なる場合があります。

また、製品安全上の取り扱い、環境対応につきましては、製品販売時の法令、規制に適合するものであり、製品販売後の法令、規制の変更内容を反映していない場合があります。予めご了承ください。

著作権について

本サービス内の電子データにつきましては、弊社(小橋工業株式会社)が著作権その他知的財産権を保有します。無断で他のウェブサイトや印刷媒体に転載することや複製、翻訳等はできません。但し、お手持ちの製品ご使用の為、1部に限り印刷することができます。

保証について

弊社の製品保証、安全性の保証は製品付属の書面に基づく保証に限られており、弊社サイト内の電子データに基づく保証は提供いたしません。

お問合せについて

ご使用の製品の取り扱い及び、使用上の安全等に関するお問合せは、ご購入店にご相談頂きますよう、お願いいたします。

免責事項

弊社サイトのご利用に起因するソフトウェア、ハードウェア上の事故その他の損害等につきましても、一切の責任を負いません。

弊社サイトのご利用に際して生じたお客さまと第三者との間のトラブルにつきましては、一切責任を負いません。弊社サイトのサービスは予告なく中止、または内容や条件を変更する場合がございます。

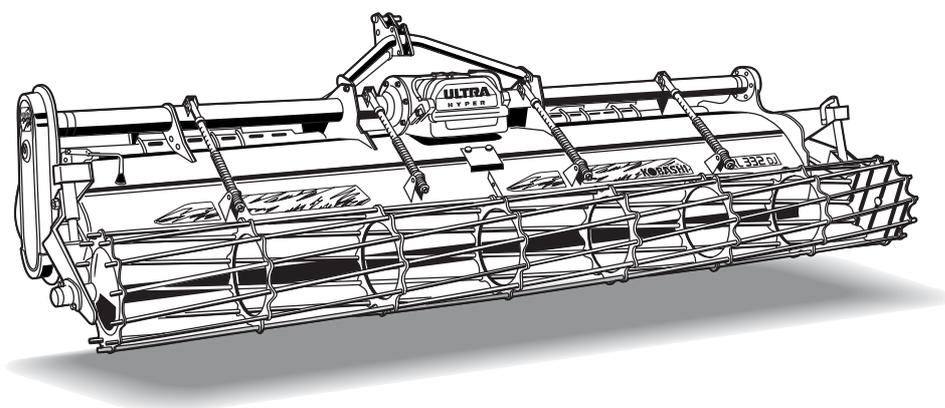
以上

小橋工業株式会社

コバシ ウルトラハロー

取扱説明書

KRM-2DJ
KRL -2DJ



当製品を安全に、また正しくお使いいただくために必ず本
取扱説明書をお読みください。誤った使いかたをすると、
事故を引き起こす恐れがあります。
お読みになった後も必ず製品に近接して保存してください。

KOBASHI

はじめに

このたびは、コバシウルトラハローをお買い上げいただきましてありがとうございました。

この取扱説明書は、ウルトラハローの性質を十分に発揮させ、より安全で快適な農作業をしていただくためにも、ご使用前によくお読みいただき、正しい取扱いをしてくださるようお願いいたします。

又、ウルトラハローを他の人に貸出しされる場合には、この取扱説明書も併せて貸出していただき、正しい取扱いをしていただくようにご指導をお願いいたします。

なお、本製品については、不断の研究成果を新しい技術としてただちに製品に取り入れておりますので、お手元の製品と本書の内容が一致しない場合もありますが、あらかじめご了承ください。

▲ 安全作業のポイント

◎安全な作業をしていただくためには、まず機械の使い方を十分理解し、正しい取扱いをすることが基本となります。

◎この取扱説明書では、特に、重要と考えられる取扱上の注意事項について、次のように表示しています。

必ずお読みいただいて事故のない安全な作業をしてください。

危険…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものを示します。

警告…その警告文に従わなかった場合、死亡または重傷を負う危険性があるものを示します。

注意…その警告文に従わなかった場合、ケガを負う恐れがあるものを示します。

取扱上の注意…その警告文に従わなかった場合、機械の損傷を起こす恐れのある操作を示します。

コバシウルトラハローの使用目的・使用範囲

このコバシウルトラハローは、水田・畑の耕うん、碎土整地用の作業機です。
使用目的以外の作業や改造などは、決してしないでください。

目次

▲ 安全に作業するために1	作業前の点検16
1 はじめに1	1 各部のボルト・ナットのゆるみ16
2 作業の前に1	2 ジョイントへのグリスアップ17
3 トラクタへの着脱1	3 ギヤケースのオイル量17
4 防護カバー類の取付け2	4 チェンケースのオイル量17
5 装着時の前後バランスの確認2	5 サポートハウジングのオイル量18
6 トラックへの積み・降ろし2	6 ジョイントのロックピン18
7 一般走行3	7 空転・暖機運転18
8 圃場への出入り3	移動・圃場への出入り19
9 作業をしているとき3	上手な作業の仕方20
10 作業中の点検4	1 作業速度と耕うん軸回転速度20
11 トラクタを止めるとき4	2 耕深の調節21
12 その他4	3 コールタの調節22
▲ 安全ラベルの取扱い5	4 エプロンの調整23
サービスと保証について6	5 圃場の回り方24
各部の名称7	耕うん爪の取付け25
ロータリの組立8	1 耕うん爪の種類と用途25
ジョイントの取付準備10	2 耕うん爪の取付方法25
トラクタへの装着(2点オートヒッチ, 2L)11	保守・点検26
1 装着前の準備11	保管・格納29
2 トラクタへの装着12	主要諸元30
3 装着後のトラクタとの調整15	トラクタ別装着表 (KRM-2DJ)32
4 トラクタからの取外し15	トラクタ別装着表 (KRL-2DJ)36
	点検整備一覧表39
	異常診断一覧表40
	用語解説42

▲安全に作業するために

安全に作業していただくために次のことを守ってください。
もし怠ると…傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります。

1 はじめに

- 1-1 取扱説明書をよく読み、機械の使い方をよく覚えてからご使用ください。
トラクタの取扱説明書もあわせてよくお読みください。

機械の操作を知らずに使用するとたいへん危険です。

- 1-2 取扱説明書は、いつでも読めるように、機械と一緒に大切に保管してください。

- 1-3 機械を他人に貸出しされる場合は、取扱説明書も併せて貸出いただき、正しい取扱いをしていただくように、指導してください。



- 1-4 適応トラクタ以外への装着の禁止

主要諸元表に適応トラクタ馬力を表示していますので熟読の上、適応馬力内のトラクタに装着してください。特にトラクタ馬力が小さい場合はトラクタとの重量バランスが悪くなり事故の原因となります。



- 1-5 服装には注意を払いましょう

作業中の服装は、ヘルメット、丈夫な手袋、すべらない靴、キチンとした作業服を着用してください。だぶついたズボンや上着など、回転部分に巻き込まれやすい服装は、たいへん危険です。ボタンもキチンととめましょう。



- 1-6 次のような状態では、運転しないでください。

- ① 飲酒運転
- ② いねむり運転
- ③ 病気や薬物の作用で正常な運転ができないとき
- ④ 若年者
- ⑤ 妊娠中の方

機械の操作に十分熟練し、必要な運転免許証を携帯し、心身ともに健康な状態で運転してください。



- 1-7 共同作業者がいる場合は、動作ごとに合図を徹底しましょう。

- 1-8 使用目的以外の作業や、機械の改造は事故の発生、又は、機械の故障の原因となりますので、決してしないでください。

2 作業の前に

- 2-1 機械の点検を

各部のボルト、ナットなどのゆるみや、ピンの脱落がないか確認してください。作業中にボルト、ナット、ピンなどが外れますと、作業機やトラクタの破損の原因及び事故の原因となります。



3 トラクタへの着脱

- 3-1 作業機の着脱及び調整は、平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行いましょう。特に夜間の作業機の着脱は、安全で適切な照明を用いる等、安全に留意して行ってください。

▲ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

- 3-2 トラクタを移動して作業機を装着する場合には、トラクタと作業機の間に入らないように注意してください。



- 3-3 トラクタと作業機の着脱に際しては、いつでも逃げられる安全な態勢で操作し、このときトラクタは必ずブレーキで止めておいてください。
- 3-4 二人以上で着脱を行う場合は、互いに合図しあいましょう。
- 3-5 ジョイントのノックピンが、確実にPTO軸溝に、又作業機入力軸溝にはまったか確認してください。



- 3-6 取付各部のトメピンが全て確実に装着されているか確認してください。



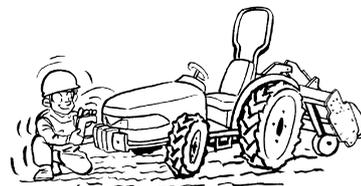
4 防護カバー類の取付け

- 4-1 ジョイントをはじめ、作業機のセフティカバー類は必ず取付けてください。

5 装着時の前後バランスの確認

- 5-1 作業機とトラクタとのバランスの確認
作業機を装着すると機体の長さや幅が大きくなり、重量バランスが変わります。確認の上トラクタの前輪に20%以上のウエイトがかかるように、フロントウエイトを取付けてください。なお、作業機に泥が付着して、重たく

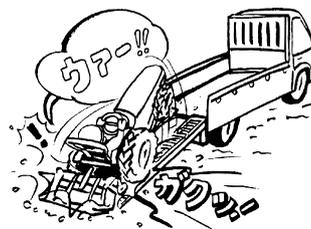
なる場合もありますので注意してください。
又、アタッチメント等を取付けて使用される場合もバランスの確認を行い、フロントウエイトを取付けてください。



- 5-2 作業機に他のアタッチメントを取付ける場合は、事前に必ずアタッチメントの取扱説明書を良く読んでください。

6 トラックへの積み・降ろし

- 6-1 積み・降ろしの場所は平坦で安全なところを選びましょう。
- 6-2 すべり止めをした丈夫なアユミ板を確実に固定してください。傾斜角度、平行度を確認してください。
- 6-3 トラックは移動しないようにしっかりと車のサイドブレーキをかけてください。
- 6-4 トラクタの左右のブレーキペダルを連結し、脱輪しないように注意してください。又途中でクラッチを切ったり、変速を中立にしないでください。低速で積み・降ろしをしてください。
- 6-5 作業機を装着しての積み・降ろしはトラクタの重量バランスが変わります。泥の付着等もあり、十分注意して行ってください。



- 6-6 折りたためる作業機は折りたたみ、エクステンションレベラもたたみ、トラックの荷台よりはみ出さないように注意し、強度が十分あるロープで確実に固定してください。

▲ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

7 一般走行

- 7-1 トラクタは作業機を装着して公道を走行できません。
(道路運送車両の保安基準)
作業機を装着して走行すると、他の車や電柱等に引っかけて事故の原因になります。



- 7-2 トラクタ・作業機には運転者以外の人を乗せないでください。



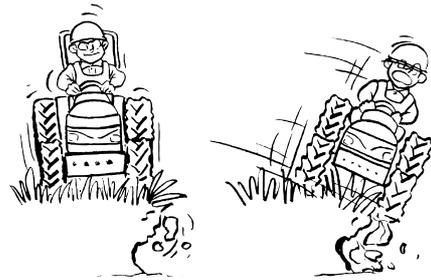
- 7-3 左右のブレーキペダルを連結して走行してください。



- 7-4 作業機の回転を止めて走行してください。
7-5 作業機の落下防止装置を必ず使用して走行してください。
7-6 必要以上の高速運転、急発進、急ブレーキ、急旋回をしないでください。
7-7 旋回するときは、作業機に人や物が接触しないように注意してください。



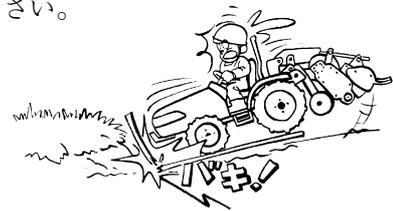
- 7-8 作業機は左右がトラクタの機体幅より広いため、走行時は十分注意してください。移動時は作業機の折りたたむ箇所は折りたたみ走行してください。又スタンドがついている場合も必ず外してください。
7-9 路肩に草が茂っている所を走行するときは特に路肩の強度に気を付けてください。



- 7-10 坂道では、クラッチを切ったり、変速を中立にしないでください。
7-11 坂道では、スピードを落とし、低速で走行してください。
7-12 坂道では、エンジンブレーキを使用し、急ブレーキをかけないでください。

8 圃場への出入り

- 8-1 圃場に入るときは、必ず前進で速度を下げ、うねや段差に対して直角に進んでください。
8-2 圃場から出るときは、傾斜しているうねはバックで上るか、又は丈夫なアユミ板を使用してください。



- 8-3 うねや段差に対して斜め方向に進むと、横滑りや転倒する危険があります。作業機を低くして重心を下げ、直角に進めてください。

9 作業をしているとき

- 9-1 いねむり運転、わき見運転をしないようあらかじめ体調を整えてください。

▲ 安全作業をもし怠ると傷害事故又は人身事故を引き起こすことがあります

- 9-2 回転部分等、動く所には触れないでください。
- 9-3 作業中は、まわりに人を近寄らせないでください。特に子供には十分注意してください。補助作業者がある場合は、動作ごとに合図をかわしてください。



- 9-4 運転者が運転位置をはなれて作業機を調整する場合、又、爪軸等への草やワラのからみ付きを取りのぞく場合等は、必ずトラクタの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、かつ、PTO軸への動力の伝導が絶たれていることを確認した上で行ってください。



- 9-5 作業機の下にもぐったり、足をふみこんだりしないでください。



- 9-6 作業機のカバーは、土礫が飛散ないように調節してください。



- 9-7 ぬかるみにはまっても作業機は絶対に外さないで、他の車に引き上げてもらってください。牽引点は低くしてください。

10 作業中の点検

- 10-1 作業機の点検を行うときは、トラクタの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、かつ、PTO軸への動力の伝導が絶たれているこ

とを確認した上で行ってください。又、油圧ロックも必ず行ってください。



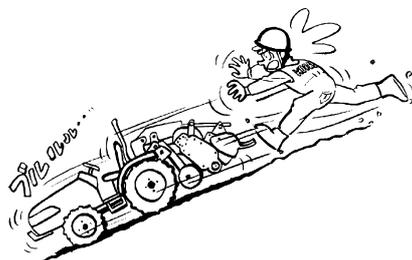
- 10-2 点検のために外した防護カバーは、必ず元の通りに取付けてください。



- 10-3 ラジエータ、マフラは高温になりますので、ヤケドに注意してください。
- 10-4 点検整備に必要な工具類は、適切な管理を行い、正しい使用をしてください。

11 トラクタを止めるとき

- 11-1 平らな場所に止めてから、作業機を降ろしてエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてください。
- 11-2 傾斜地に止める場合は、タイヤに必ず車止めをしてください。



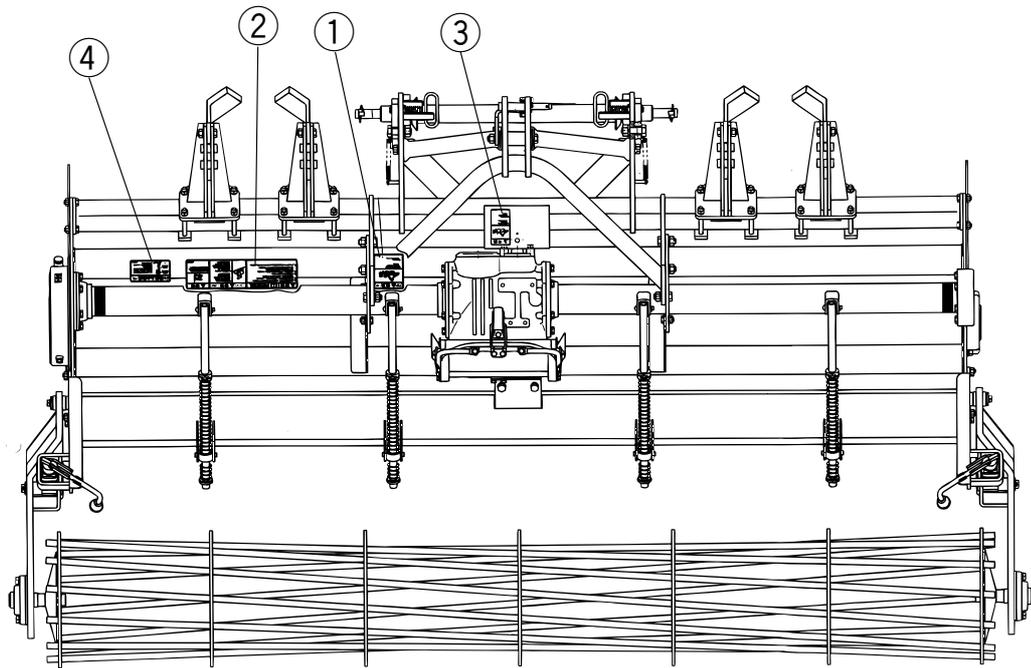
12 その他

- 12-1 作業機指定のPTO回転数を守ってください。低速回転用の作業機を高速回転で使用すると作業機が異常作動し危険です。
- 12-2 トラクタのエンジン始動時は、作業機が下がっていることを確認してください。作業機が不意に下がることもあり危険です。

安全ラベルの取扱い

- ① いつも汚れや泥をとり警告がハッキリと見えるようにしてください。
- ② 安全ラベルが損傷したり破損した時は、新しいものと交換してください。
- ③ 安全ラベルを貼ってある部品を交換した時は、必ず新しい部品に、取外した部品と同じ場所に安全ラベルを貼ってください。

コバシウルトラハローには、次の安全ラベルが貼ってあります。よくお読みになって、理解した上で作業してください。



②

注意	<p>使用前に取扱説明書をよく読んで安全で正しい作業をしてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 作業機を着脱するときは、トラクタと作業機間に立たないでください。 2. エンジン始動時や作業中は、周囲の安全を確認し、人がいないか、特に子供には注意し、近づけないようにしてください。 3. 作業機の上に人を乗せないでください。 4. 点検整備時には、必ずエンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、油圧降下防止用ストップバルブを締めてください。また、絶対に作業機の下にはいつて作業をしないでください。 5. ジョイントのノックピンが確実にロックされていることを確認してください。
-----------	--

コードNo.9993689

警告	<p>転落事故を防ぐためには、発進や登坂時にトラクタの前輪が浮き上がらないように充分な前部ウエイトを取付けてください。</p> <p>作業機にアタッチメントを装着する時は、特にバランスを注意するとともに、アタッチメントの取扱説明書をよく読んで、適切な処置や調整を行ってください。</p>
-----------	---

警告	<p>ロータリの回転部に接触すると、ケガをするおそれがありますので、回転部に近づかないでください。</p> <p style="text-align: right; font-size: small;">9993689</p>
-----------	---

①

コードNo.9992127

危険	<p style="text-align: center;"> </p> <ul style="list-style-type: none"> ● エンジンまたはジョイントが回転中は、体を近づけないでください。 ● 巻き込まれて死傷する恐れがあります。 <p style="text-align: right; font-size: small;">9992127</p>
-----------	--

③

コードNo.9992126

危険	<p style="text-align: center;"> </p> <ul style="list-style-type: none"> ● セフティカバーは、常に装着して使用してください。 ● 巻き込まれて、死傷するおそれがあります。 <p style="text-align: right; font-size: small;">9992126</p>
-----------	---

④

コードNo.9994207

取扱上の注意	<p>指定のシャーボルト以外は、使用禁止</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 左図を参照し、シャーボルトを正しい位置に取り付けてください。 ● 指定以外のボルトを使ったり、取付位置を誤るとシャーボルトが早く切れたり、ローター本体が破損する原因となります。 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 5px;"> <thead> <tr> <th style="font-size: small;">部品名称</th> <th style="font-size: small;">品目コード</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="font-size: small;">シャーボルトキット</td> <td style="font-size: small;">6030107</td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: right; font-size: small;">9994207</p>	部品名称	品目コード	シャーボルトキット	6030107
部品名称	品目コード				
シャーボルトキット	6030107				

サービスと保証について

1 保証書について

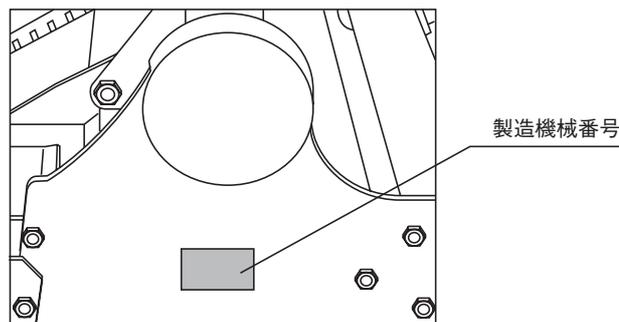
コバシウルトラハローには保証書が添付してあります。保証書はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。保証内容は保証書をご覧ください。お読みになった後は大切に保管してください。

2 アフターサービスについて

機械の調子が悪いときに点検、処置してもなお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い上げ頂いた販売店、農協、弊社営業所までご連絡ください。

その際

- 機械の型式名と製造機械番号
- ご使用状況（作業速度、回転速度はいくらで、どんな作業をしていたときに）
- どのくらい使用されましたか（約〇〇アール・約〇〇時間使用后）
- 不具合が発生したときの状況を、できるだけ詳しくお教えてください。



補修用部品の供給年限について

この製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打切り後9年といたします。

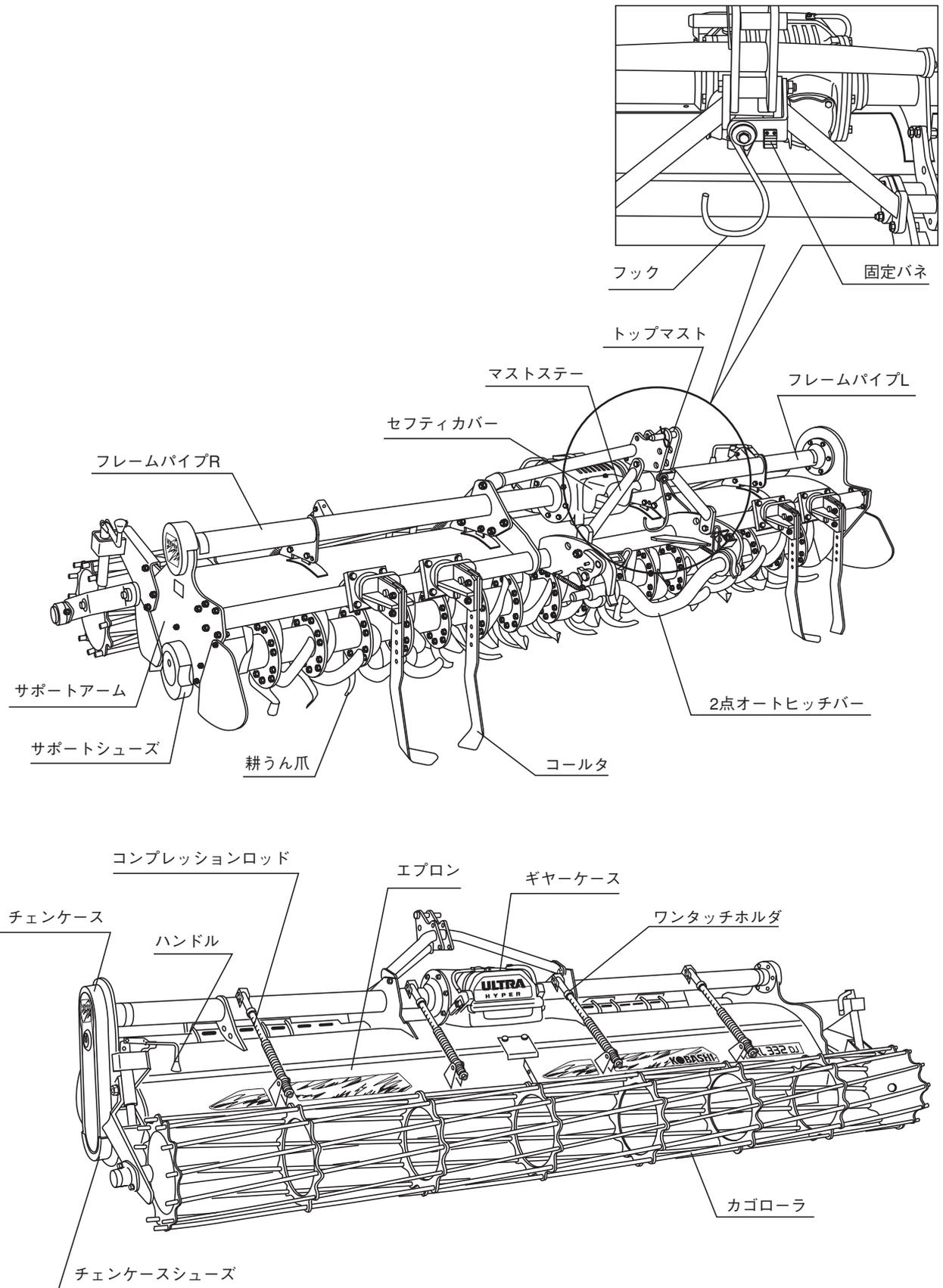
但し、供給年限内であっても、特殊部品につきましては、納期等についてご相談させていただく場合もあります。

補修用部品の供給は、原則的には、上記の供給年限で終了いたしますが、供給年限経過後であっても、部品供給のご要請があった場合には、納期及び価格についてご相談させていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買求めください。市販類似品をお使いになりますと、機械の不調や、機械の寿命を短くす

各部の名称



ロータリの組立

1. 開梱

コバシローターは、木枠梱包されていますので開梱してください。

▲ 注意

開梱する時は、丈夫な手袋を着用して行ってください。

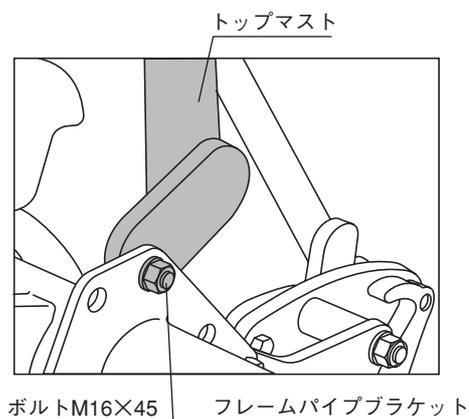
木枠梱包には、スクリュウクギが使用されています。クギの踏み抜きなどないように注意して開梱してください。

2. 下記の部品が本体と分かれていますので、組付けてください。

部品名	数量	摘要
トップマスト	1	2L
マストステー	2	
ジョイント	1	
2点オートヒッチ	1	2L
ジョイントハンガ	1	

① トップマスト、マストステーの取付け

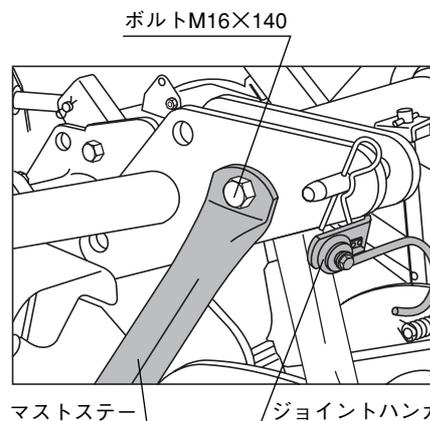
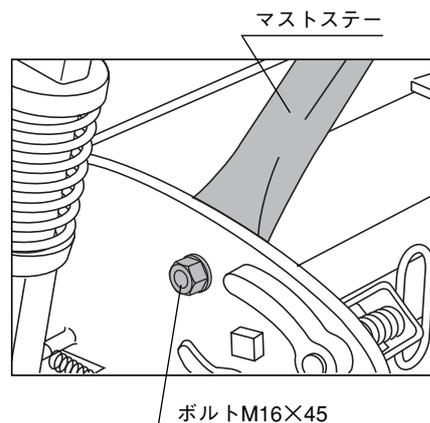
まず、トップマストとフレームパイプブラケット（左右）を仮止めしてあるM16×45のボルトで組付けてください。



●KRM-2DJ の場合

マストステーとヒッチブラケットをM16×45のボルトで取付けます。

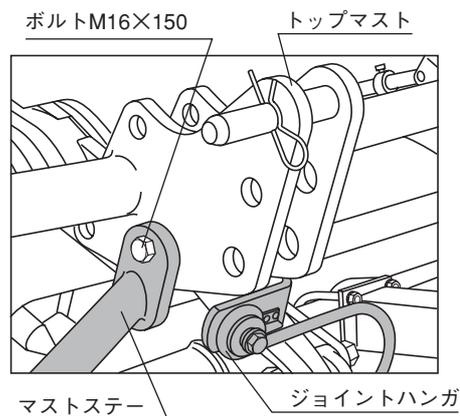
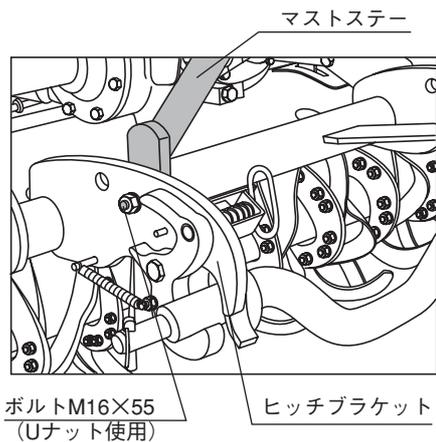
そして、トップマスト、マストステー、ジョイントハンガをM16×140のボルトで組付けます。



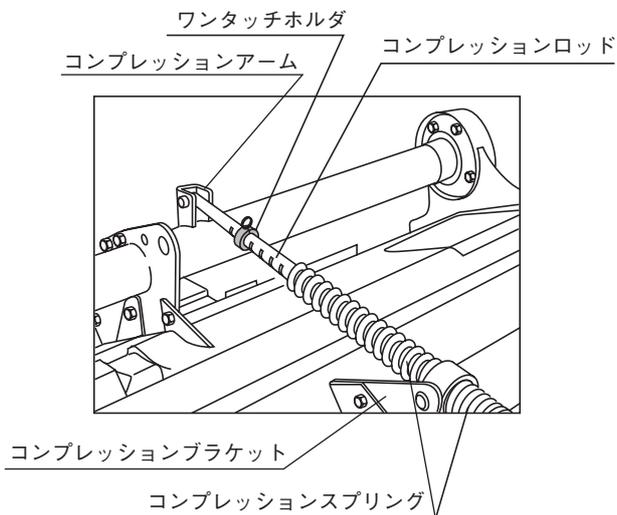
●KRL-2DJ の場合

マストステーとヒッチブラケットをM16×55のボルトで組付けてください。

そして、トップマスト、マストステー、ジョイントハンガをM16×150のボルトで組付けてください。

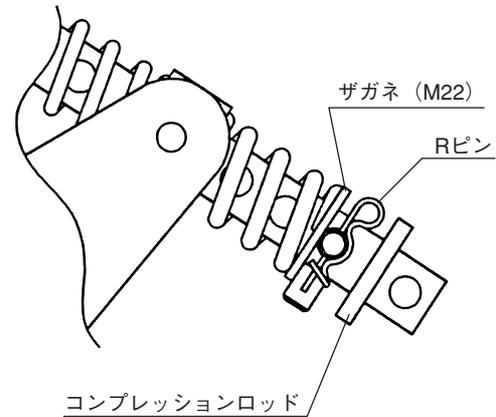


② コンプレッションロッドの取付け



- コンプレッションロッドはエプロンのコンプレッションブラケットに下から通し、フレームパイプのコンプレッションアームにピンで固定します。
- コンプレッションスプリング（上下）、ワンタッチホルダー、ザガネ（M22）は図の位置に組付けてください。

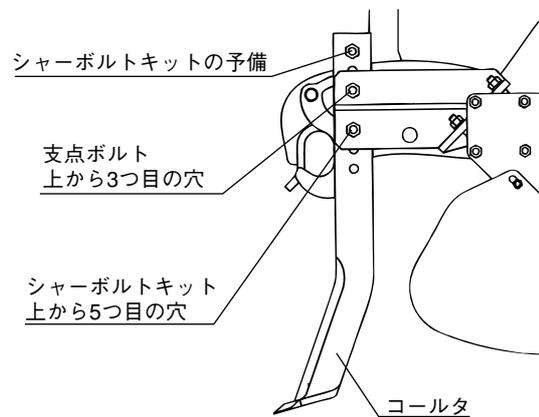
- コンプレッションロッド下側のピンに組付けるRピンは、曲がり部分がザガネと当たらないように反対側にくるように組付けてください。ピンは下から2つ目の穴が標準位置です。



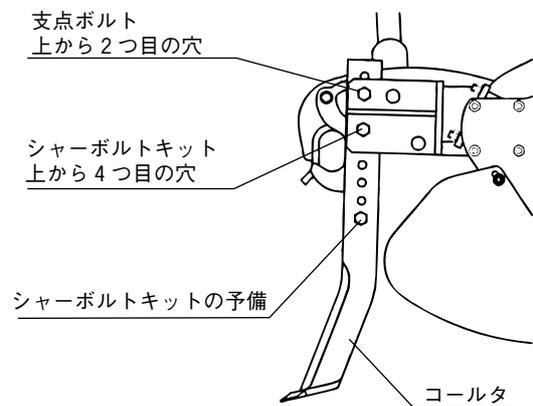
③ コールタの取付け

コールタは下図位置が、標準取付位置です。

●KRM-2DJ の場合



●KRL-2DJ の場合



取扱上の注意

コールタを取付けるときは上側に8 Tボルト（銀色メッキ）を、下側に4 Tボルト（金色メッキ）を使用してください。逆にしているとフレームを損傷するおそれがあります。

ジョイントの取付準備

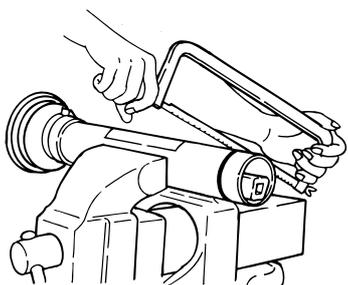
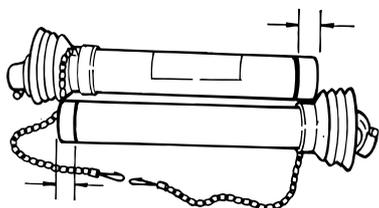
取扱上の注意

長過ぎるジョイントを装着しますとトラクタのPTO軸と作業機の入力軸を突き上げて破損させます。又、短かすぎますと、ジョイントのカミ合わせが不足して、チューブが破損します

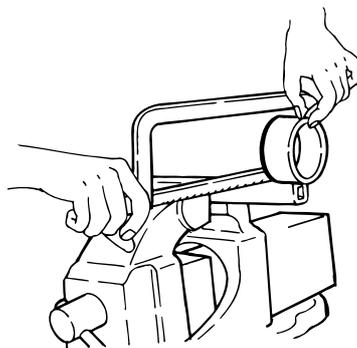
お願い トラクタによっては標準のジョイントが長すぎる場合があります。トラクタ別装着表（P32～38）を参照し、切断長さを確認の上、チューブ（シャフト）とセフティカバーのオス側メス側を切断してください。

1 切断方法

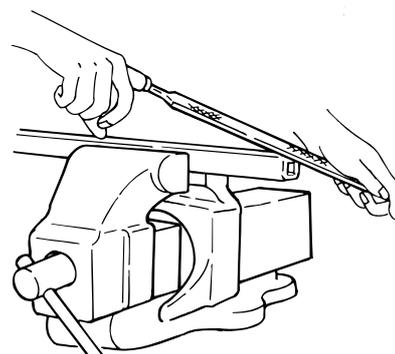
1. 長い分だけセフティカバーの余分な長さをオス、メス両方切りとります。



2. 切りとったセフティカバーと同じ長さだけ短くなるようにチューブシャフトを金ノコ、又は、カッターでオス、メス両方切断します。



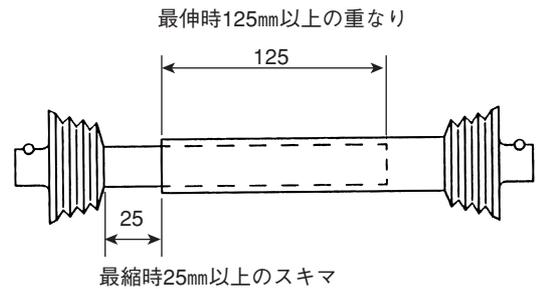
3. 切り口をヤスリでなめらかに仕上げ、切り粉を取除き、グリスを塗布して、オス、メスを組み合わせます。



2 長さの確認

1. トラクタの3点リンクにオートヒッチを取付け、トップリンクの長さを指定の長さに調節し、ジョイントをセットしてください。

2. トラクタのポジションコントロールレバーを操作し作業機を徐々に上げて、ジョイントが最も縮んだ状態でも、軸を突かないことを確認してください。
3. ローリンクを上下してカバーのスキマを確認してください。



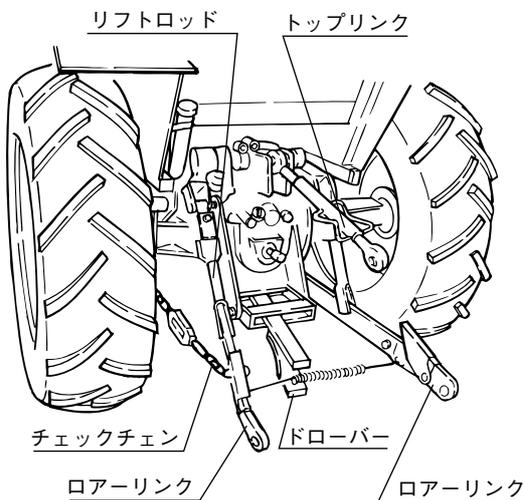
トラクタへの装着（2点オートヒッチ、2L）

1 装着前の準備

1. トラクタの準備

本機の装着方法は標準3点リンク式のヒッチです。

ドロバーがジョイントに干渉する場合は、ドロバーの位置を変えるか、取外してください。



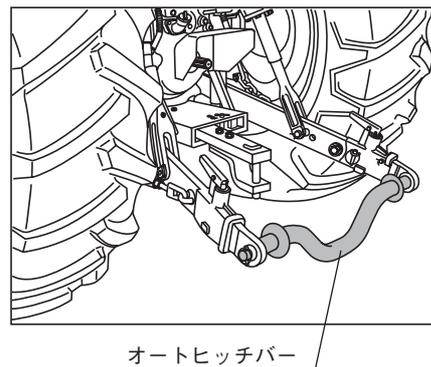
取付位置は、本書のトラクタ別装着表（P32～38）を参照の上、トップリンク長さやリフトロッド位置を確認、取付けてください。

2. オートヒッチバーの取付け

▲ 注意

トラクタの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、PTO軸への動力が切れていることを確認してから作業してください。

トラクタのポジションコントロールレバーを下げ、ローリンクを下げます。オートヒッチレバーを図のようにトラクタのローリンクに取付けてください。



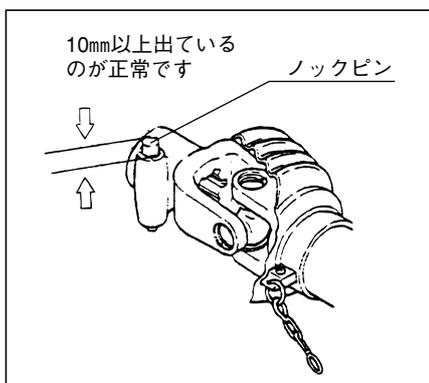
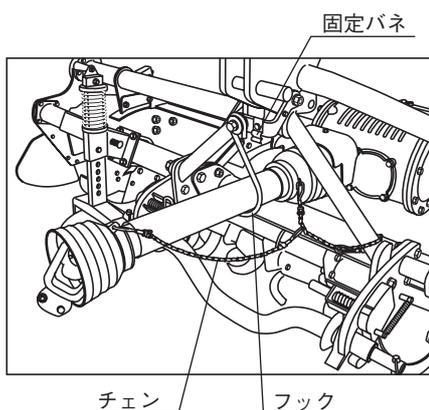
3. ジョイントの取付け（作業機側）

- ① ジョイントのスライド部が抜けないように、2本のチェンを連結します。
- ② ジョイントハンガのフックを固定バネから外して下げます。

- ③ ジョイントを、向きに注意しながらフックに乗せて、作業機側の入力軸に取付けます。ジョイントのノックピンを押しながら軸に挿入し、軸の溝にノックピンをはめ込みます（抜け止め）。

ノックピンが正確に軸溝にはまっているか確認してください。

ノックピンの「頭が10mm以上」出ているか、確認してください。



2 トラクタへの装着

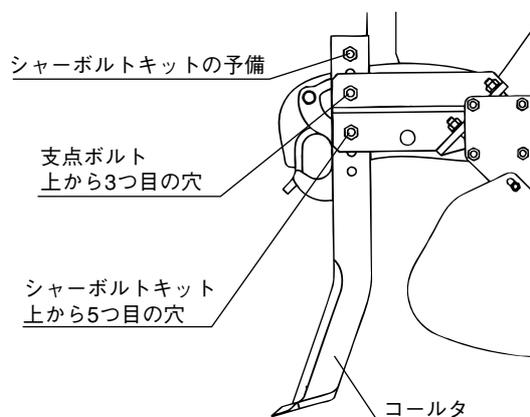
▲ 注意

1. 平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. 夜間の場合は適切な照明を用いてください。
3. トラクタと作業機の間には人が入らないように注意してください。
4. 二人作業の場合は、互いに合図しあって作業をしてください。

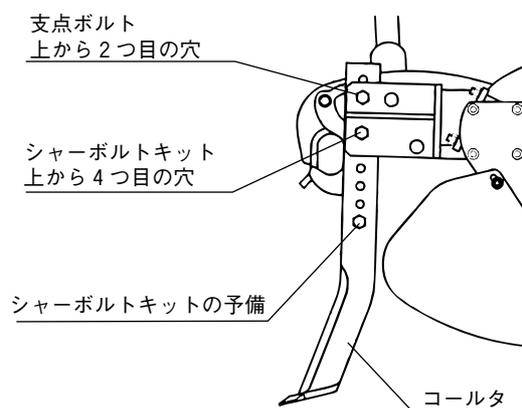
1. 作業機を装着姿勢にします

下図の位置にコールタをセットしてください。

● KRM-2DJ の場合



● KRL-2DJ の場合

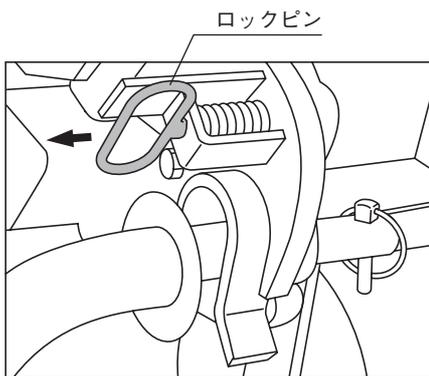


▲ 警告

作業機が後傾していると、後ろへ転倒しやすくなり、トラクタに装着するとき危険です。

2. オートヒッチフックのロック解除

ロックピンを矢印方向に引張るとフックが開き、装着の状態になります。ロックピンはオートヒッチがドッキングされると自動的に入り込みロックされますので、ロックピンは図の位置にしておきます。



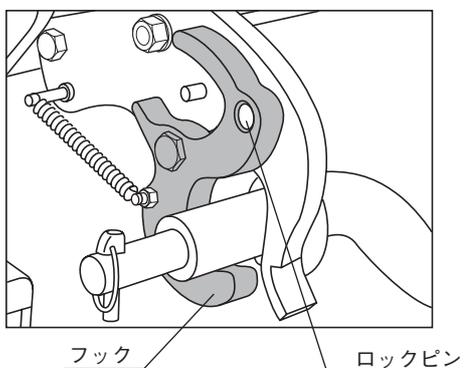
3. 取 付 け

バックしてヒッチを合わせる

トラクタのPTOの変速はニュートラルにしておいてください。

オートヒッチバーを下げて、トラクタをゆっくり作業機に近づけ、作業機のヒッチブラケット開口部にオートヒッチバーが取付くようにしてください。この時トラクタと作業機が直角になるようにしてください。

装着後、ロックピンが確実にフックに入り込んでロックされているか必ず確認してください。



▲ 警告

装着作業中、トラクタを止めるときは、そのつどエンジンを切り、駐車ブレーキをかけてください。トラクタと作業機にはさまれケガをするおそれがあります。

4. トップリンクの取付け

トラクタのトップリンクを付属のトップリンクピンで取付けてください。

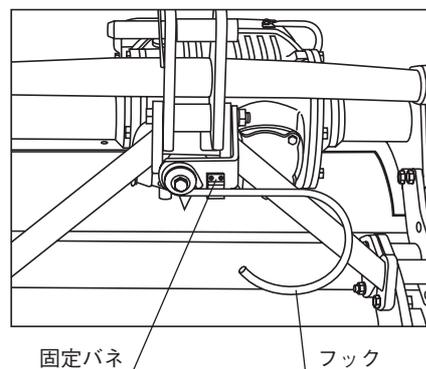
付属のトップリンクピンはカテゴリⅡ、Ⅲ形兼用です。

5. ジョイントの取付け（トラクタ側）

▲ 警告

ジョイントを取付けるときは必ずトラクタのエンジンを止め、PTOチェンジレバーがニュートラル（OFF）の位置になっていることを確認してください。

- ① 抜け止めのために連結していたジョイントのチェンを外します。
- ② ジョイントハンガのフックをジョイントから外し、固定バネにはめ込みます。



取扱上の注意

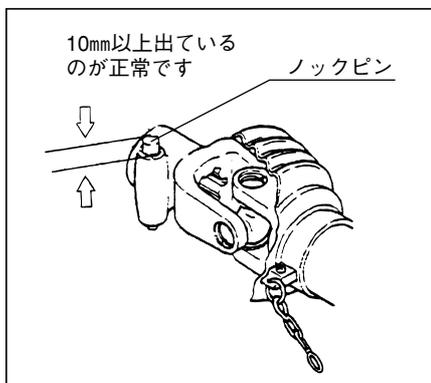
トラクタのPTO軸にジョイントを取付ける時は、必ず、ジョイントハンガのフックからジョイントを外してください。

又この時、フックは必ず固定バネにはめ込んでください。

- ③ ジョイントをトラクタのPTO軸に取付けます。ジョイントのノックピンを押しながら軸に挿入し、軸の溝にノックピンをはめ込みます（抜け止め）。

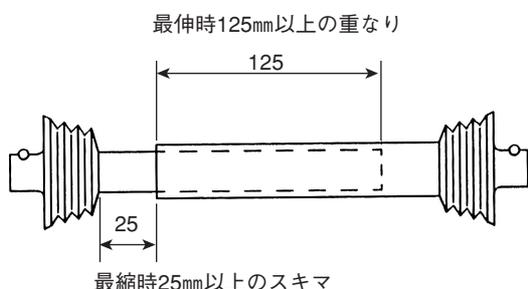
ノックピンが正確に軸溝にはまっているか確認してください。

ノックピンの「頭が10mm以上」出ているか、確認してください。

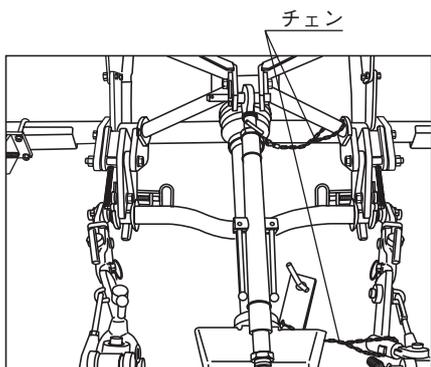


- ④ トラクタのポジションコントロールレバーを操作し、作業機を徐々に上げて、ジョイントが最も縮んだ状態でも、軸を突かないことを確認してください。

- ⑤ ローアリンクを上下してカバーのスキマを確認してください。



- ⑥ ジョイントセフティカバーのチェンを固定し、回り止めをします。この時、作業機を最も下げた状態でもチェンが緊張しないようにたるみを持たせてください。



⚠ 危険

セフティカバーを取外して使用すると、死傷することがありますので、必ず取付けたままで使用してください。

6. チェックチェンを張ってオートヒッチをトラクタの中心に合わせてください。又、ローアリンクの左右の高さも均等にしてください。

⚠ 注意

装着が終わりましたら、各部のトメピンやトップリンクピンの抜け止めが確実になされていることを確認してください。

取扱上の注意

1. 最初の装着時には、作業機をゆっくり上げながら、トラクタと作業機が干渉しないか確認してください。特に、キャビン付きトラクタの場合には、背面のガラスを割らないように注意してください。
2. トラクタによっては、スイッチひとつで自動で最上部まで上昇する機構がありますが、必ず手で干渉の有無を確認してから使用してください。又、作業機が勢いよく上がるため10cm以上の余裕を持って上げ規制をしてください。
3. トラクタのポジションコントロールレバーを操作し、作業機を徐々に上げて、ジョイントが最も縮んだ状態でも軸を突かないことを確認してください。
4. トップリンクやローアリンクの取付位置、及びリフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合にも干渉の有無を確認してください。
5. 左右の水平調節についても注意してください。

3 装着後のトラクタとの調節

1. チェックチェンの調整（左右の振れ）

作業機を持ち上げた状態で、作業機の入力軸とトラクタのPTO軸を合わせて、左右の横振れを確認して、横振れが10mm以内になるように、左右均等にチェックチェンを張ってください。

2. トップリンクの調整（前後の傾き）

トップリンクはトラクタ別装着表（P32～38）を参照し調整してください。

▲ 注意

トップリンクの調整は、作業機を接地させて行ってください。トップリンクが抜けて作業機が落下することがあり危険です。

3. リフトロッドの調整（左右の水平）

作業機を持ち上げ、後方より見て左右が水平になるように、トラクタのレベリングハンドル、又は、油圧スイッチを操作し、調整してください。

4. ジョイントの異音について

シングルジョイントの場合、トラクタのPTO軸と作業機の入力軸とが平行に近いほど異音は少なくなります。

取扱上の注意

作業機を最上位置に上げた状態で回転させますと、異音が発生し、ジョイントに無理がかかり、損傷の原因になります。回転しても振動や、音が出ない位置にポジションコントロールレバーのストッパーをセットしてください。

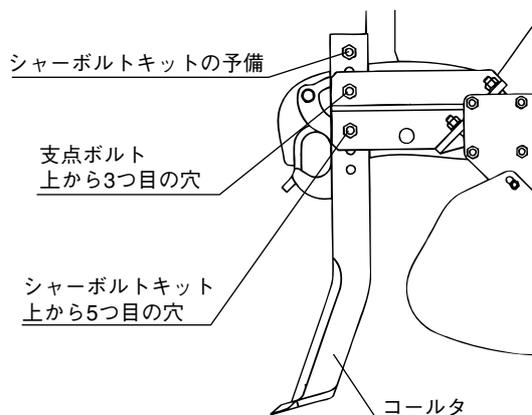
4 トラクタからの取外し

▲ 注意

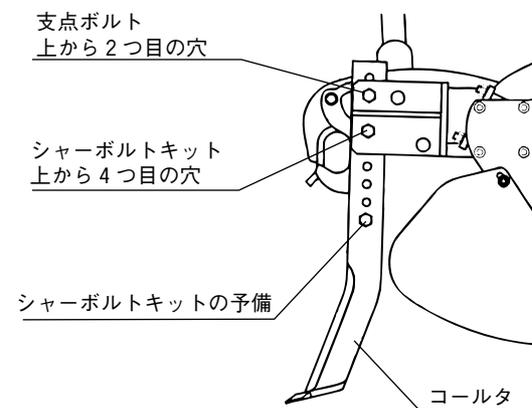
作業機を取外す場合は、平坦で地盤のしっかりした所で、取外しのためのスペースが十分とれる所で行ってください。

1. 下図の位置にコールタをセットしてください。

●KRM-2DJ の場合



●KRL-2DJ の場合



2. トラクタのポジションコントロールレバーを「下げる」にして作業機を下げ、接地させます。

▲ 注意

トラクタの駐車ブレーキをかけ、又、エンジンを停止し、PTO軸への動力が切れていることを確認してから作業してください。

3. ジョイントの取外し（トラクタ側）

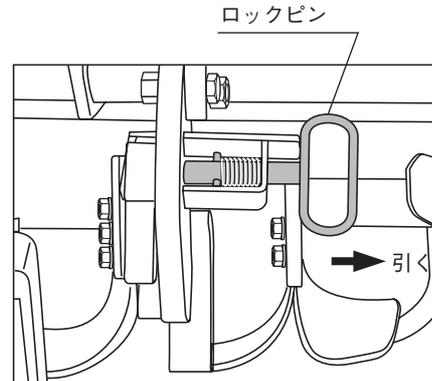
- ① セフティカバーのチェーンを外し、ジョイントのトラクタPTO側を取外します。
ジョイントのロックピンを押しながらジョイントを引き抜いてください。
- ② ジョイントハンガのフックを固定バネから外して下げ、ジョイントを乗せます。
- ③ ジョイントのスライド部が抜けないように2本のチェーンを連結します。

4. トップリンクを外してください。

コールタが接地し、作業機が安定するまで、トップリンク長さを調整してください。
トップリンクに力がかからなくなり、ネジが軽くなったところで、トップリンクを外してください。

5. オートヒッチフックのロック解除

ロックピンを矢印方向に引張ると、フックのロックは解除されます。ロックピンを図のようにセットしておきます。
次に、ポジションコントロールレバーを下げながらトラクタをゆっくり前進させると作業機は外れます。



作業前の点検

作業機の正常な機能を発揮させるため、又、故障を未然に防ぐには、機械の状態をいつもよく知っておくことが大切です。

下記の始業点検は毎日欠かさず行ってください。

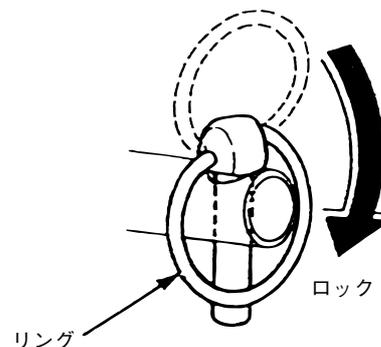
▲ 注意

1. 点検は平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. トラクタのエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてから行ってください。
3. 作業機は地面におろしてから行ってください。作業機を持ち上げた状態で点検する必要がある場合は、油圧をロックし、落下防止をするとともに、台などを耕うん軸の下に置き、作業機が絶対落下しないようにしてから行ってください。

① 各部のボルト・ナットのゆるみ

各部のボルト・ナット類に緩みはないか、増し締めしながら点検してください。特に耕うん爪取付ボルトは緩み易いので点検が必要です。尚、新品の場合は使用1時間で点検を行ってください。

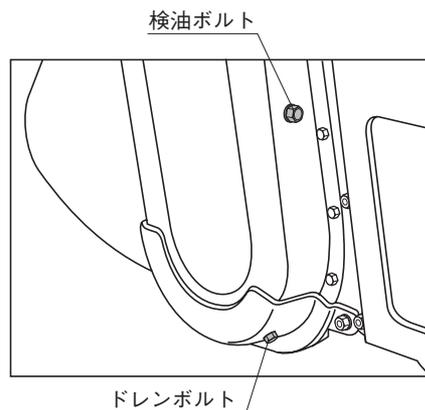
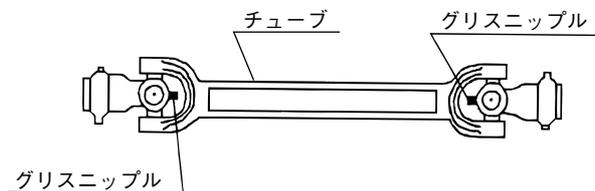
又、ピン類も全てそろっていることを確認してください。又、リンチピンのリングが確実にロックされていることを確認してください。



2 ジョイントへのグリスアップ

ジョイントの各部にグリスアップしてください。

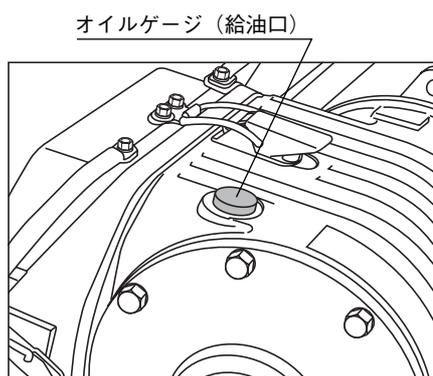
- ① グリスニップル
- ② チューブ



3 ギヤークースのオイル量

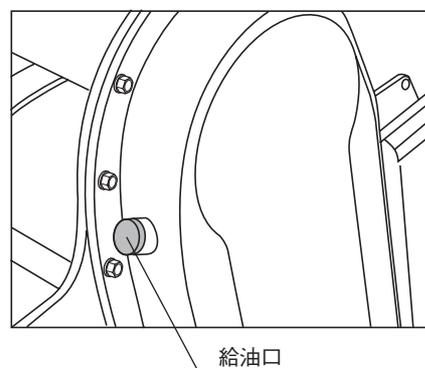
ギヤークース後部にあるオイルゲージを抜いて、先端をきれいにふき、再び差し込み、ゲージの切り込み線までオイルがあるか確認してください。ない場合は補給してください。

(ギヤークースオイル#90)

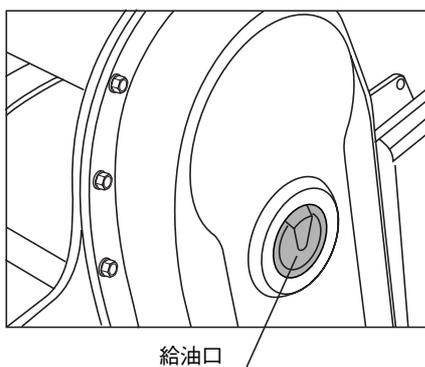


【注意】 点検するときは、作業機をトラクタに装着したまま水平な地面に置いて、作業機の入力軸が水平の状態で行ってください。

●KRM-2DJ の場合



●KRL-2DJ の場合



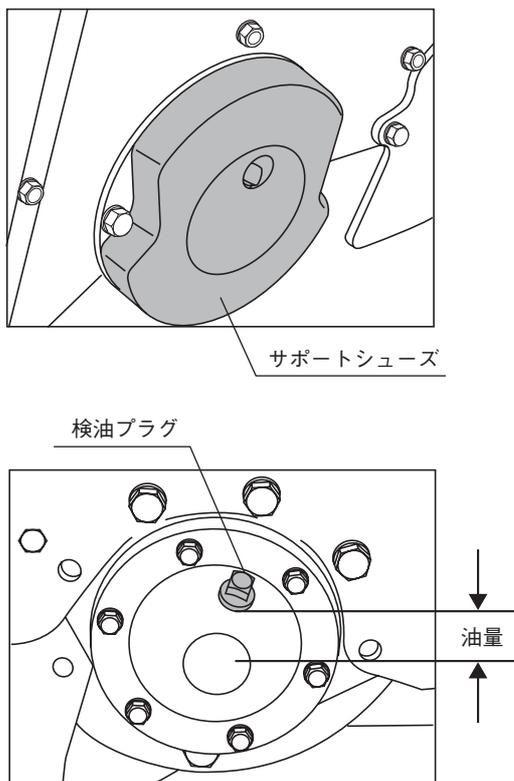
4 チェンケースのオイル量

チェンケースの後部に検油ボルトがありますので、ボルトを緩めてオイルがあるか確認してください。この時、作業機の入力軸が水平の状態を確認してください。

ボルト面よりオイルが少ない場合は、ボルト面まで補給してください。(ギヤークースオイル#90)

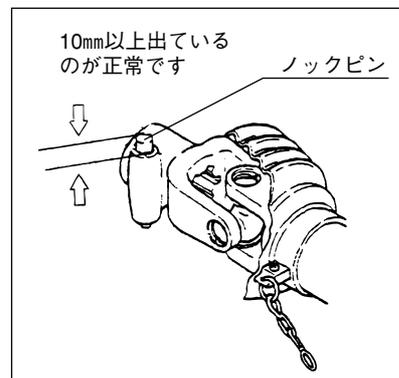
5 サポートハウジングのオイル量

初めにサポートシューズを外します。
給油口の検油プラグを外し、油量が軸心から給油口までの範囲であるか確認してください。
少ない場合は、補給が必要です、
(ギヤーオイル#90)



6 ジョイントのノックピン

ノックピンが正確に軸溝にはまっているか確認してください。ピンの「頭が10mm以上」出ているか、トラクタ側、作業機側のノックピンを確認してください。



7 空転、暖機運転

作業前には空転させ、各部より異音が発生していないか確認してください。
又、暖機運転を5~10分行ってください。

移動、圃場への出入り

⚠ 警告

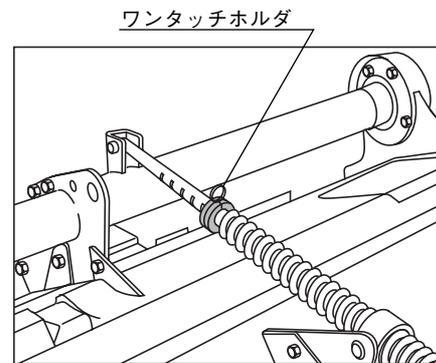
1. 移動の際は、作業機を持ち上げ、油圧ロックをし、作業機の回転を止めてください。又、チェックチェーンも確実に張れているか確認してください。
2. トラックへの積み込み、坂の登りに、トラクタの前輪が浮き上がるとハンドルが利かず危険です。フロントウエイトを着けて作業機を下げて登ってください。
3. 前後、左右に気をくばり、安全を確認しながら走行してください。高速運転、急速発進、急ブレーキ、急旋回はしないでください。
4. 圃場に入るときは、必ず前進で速度を下げて、畦や段差に対して直角に進んでください。
畦畔が高い時は、丈夫で滑り止めのあるアユミ板を使用し、傾斜角が14度以下になるようにしてください。

⚠ 注意

作業機をトラックで運搬又は、トラクタへマッキングしての移動時は、エプロン調整に使用するワンタッチホルダを可能な限りエプロンが上下に揺れない位置まで下げてください。

【守らないと】

エプロンが上下に大きく揺れ、機体が破損します。



上手な作業の仕方

▲ 警告

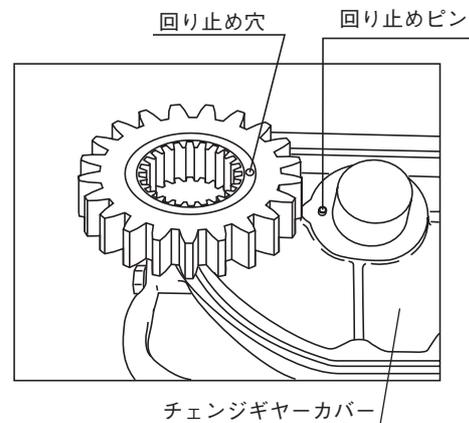
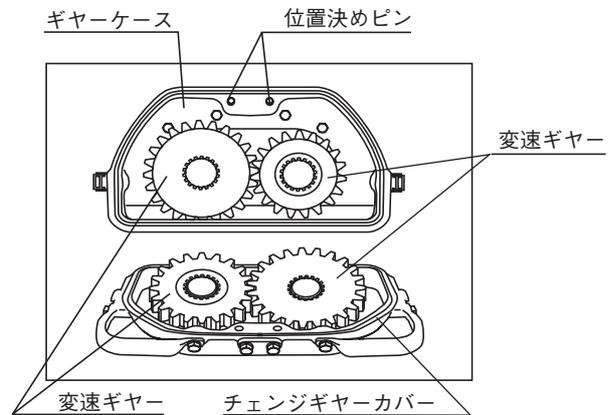
1. 運転中は危険ですから、トラクタ及び作業機の周囲には、補助作業員や、他の人を絶対に近付けないようにしてください。
2. 作業機を調整、整備する場合や、爪軸等への草、ワラのからみ付きを取り除く場合は、必ずトラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止し、PTO軸への動力の伝達が切れていることを確認した上で行ってください。
3. 畦畔での作業は、作業機を畦に引っかけないように、ゆっくりと注意して行ってください。
4. 傾斜地での急旋回は転倒の危険があります。ゆっくりと注意して行ってください。

1 作業速度と耕うん軸回転速度

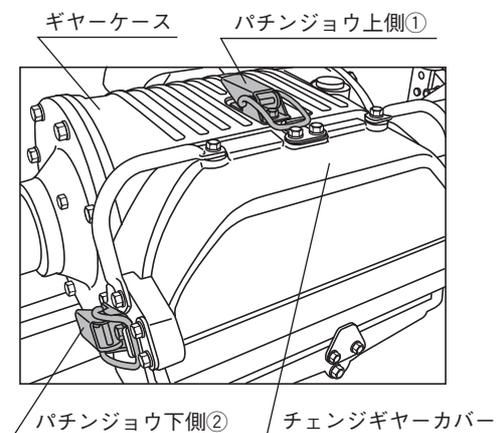
作業目的と土地条件に合わせて、トラクタの車速と耕うん軸回転速度を決めてください。
本機の耕うん軸回転速度は、変速ギヤの交換により標準セットで4段の回転速度が選べます。
変速ギヤの交換は、チェンジギヤカバーを外して行ってください。

取扱上の注意

1. 予備の変速ギヤの左右位置は大きさが組込ギヤの逆（左が大きい場合は、右に大きいギヤを入れる）に組込みます。
2. 左側の予備ギヤは回り止めピンと穴を合わせて組込みます。そうしないとチェンジギヤカバーの取付けができません。



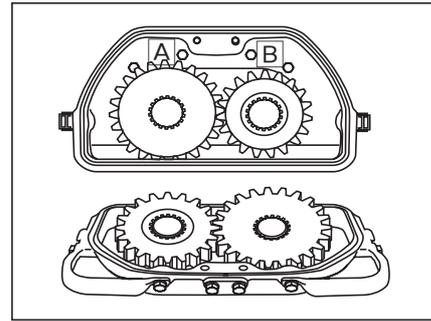
交換後は、パッキンが溝からはみださないように注意して、2カ所の位置決めピンに合わせてチェンジギヤカバーを取付けてください。
パチンジョウは3カ所のうち初めに上を固定し、その後、左→右の順に固定してください。
(開けるときは、逆の手順で行ってください。)



◆耕うん軸回転速度の選択

KRM-2DJ

ギヤー組合わせ		耕うん軸回転速度	D J 仕様
A	B	PTO回転速度 540rpmの時	
27	18	156 rpm	オプション
26	19	171 rpm	○
25	20	187 rpm	○
24	21	205 rpm	オプション
23	22	224 rpm	オプション
22	23	245 rpm	オプション
21	24	267 rpm	オプション
20	25	293 rpm	○
19	26	320 rpm	○
18	27	351 rpm	オプション



取扱上の注意

1. 逆転での作業はしないでください。ローター破損の原因になります。
2. 土地条件に応じた作業速度、PTO回転速度、深さを選んでください。
尚、石の多い圃場では作業速度は遅くし、PTO回転速度も下げて使用してください。

KRL-2DJ

ギヤー組合わせ		耕うん軸回転速度	D J 仕様
A	B	PTO回転速度 540rpmの時	
30	19	153 rpm	オプション
29	20	167 rpm	オプション
28	21	181 rpm	○
27	22	197 rpm	オプション
26	23	214 rpm	○
25	24	232 rpm	オプション
24	25	252 rpm	オプション
23	26	273 rpm	◎
22	27	297 rpm	オプション
21	28	323 rpm	○
20	29	351 rpm	オプション
19	30	382 rpm	オプション

◎は標準組込み耕うん軸回転速度

○は予備組込み耕うん軸回転速度

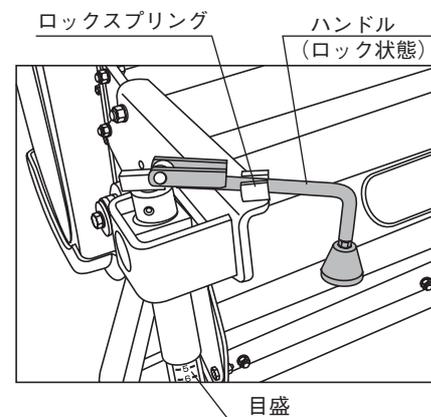
2 耕深の調節

耕深の調節は、両サイド2箇所の手柄でカゴローラを上下して調整します。

カゴローラ左右の高さのバランスは調整ネジに刻まれた目盛りを参考にしてください。

(1目盛りで約1.5cmカゴローラが上下します。)

又、調整後は、ハンドルを反転させ、必ずロックしてください。(下図参照)



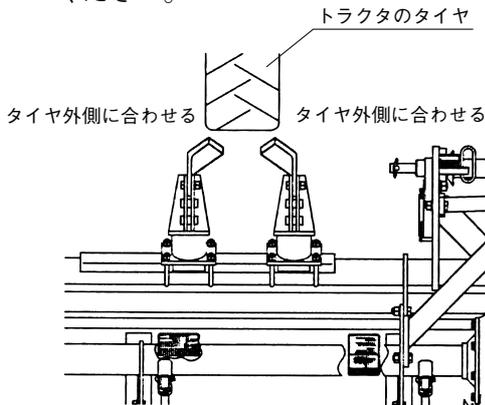
3 コールタの調節

コールタはトラクタのタイヤ跡を消し、均一な碎土、鎮圧状態にするためのものです。

トラクタのトレッドに合わせ、コールタ先端が地表より5~10cm入る程度の深さに調節してください。

1. タイヤトレッドに合わせる

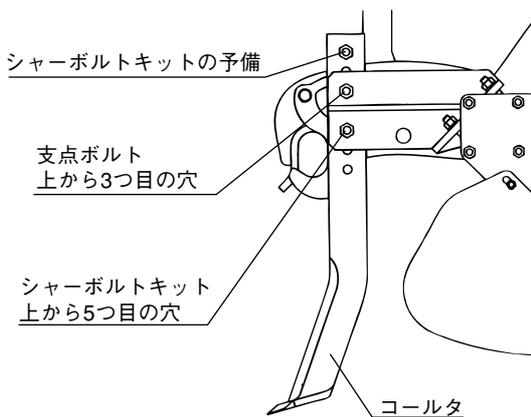
コールタブラケットを取付けているUボルトのナットを緩め、左右に動かし、トラクタのタイヤトレッドとコールタの位置を調整してください。



2. コールタの深さを調節する

●KRM-2DJの場合

コールタは下図位置が標準取付位置です。深くすると抵抗が大きくなりますので、適正な位置に調整してください。



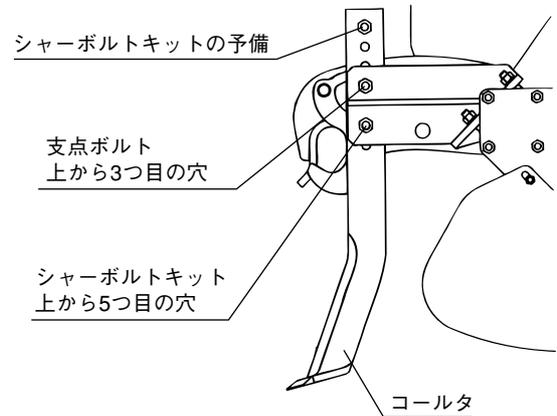
シャーボルトが折損した場合は、各コールタの最も上の穴に取付けてある予備のシャーボルト（計4個）に交換してください。

部品名称	品目コード
シャーボルトキット	6030107

取扱上の注意

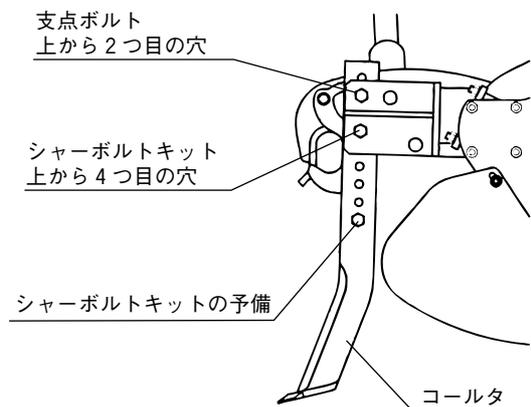
コールタは下図の位置より上には取付けないでください。

フレームが破損するおそれがあります。



●KRL-2DJの場合

コールタは下図位置が標準取付位置です。深くすると抵抗が大きくなりますので、適正な位置に調整してください。



シャーボルトが折損した場合は、各コールタの最も下の穴に取付けてある予備のシャーボルト（計4個）に交換してください。

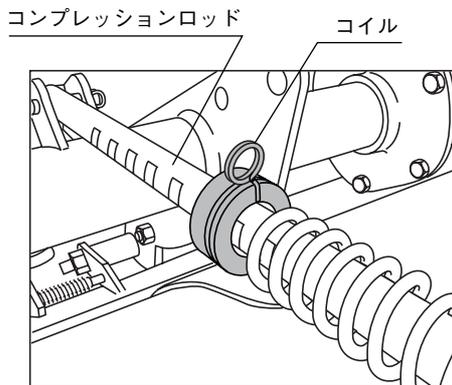
4 エプロンの調整

エプロンを調整することにより、使用目的に応じたロータリの性能（仕上がり精度、碎土）を發揮することができます。

1. ワンタッチホルダの取扱い

① ロック

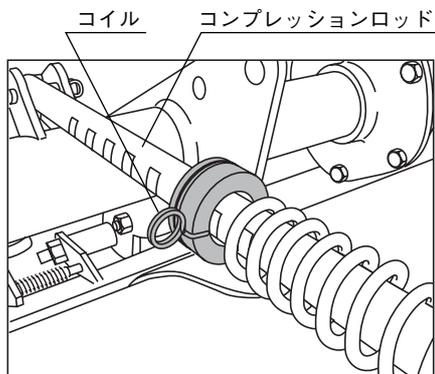
下のイラストのようにワンタッチホルダのコイル部分を上方に向けると、コンプレッションロッドの溝にロックされます。



ワンタッチホルダ（ロック状態）

② 解除

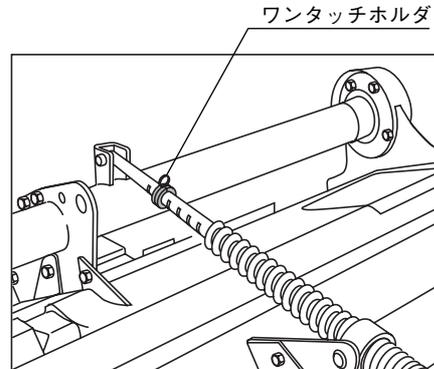
下のイラストのようにワンタッチホルダのコイル部分を横に向けると解除され、コンプレッションロッド上をスライドさせることができます。



ワンタッチホルダ（解除状態）

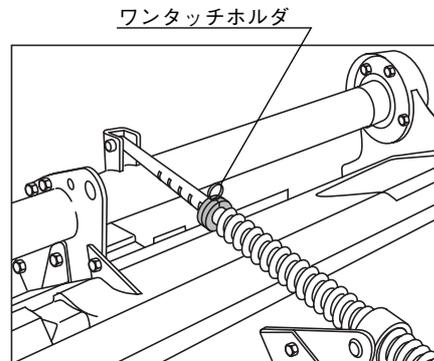
2. 一般耕うん

ワンタッチホルダを上から1番目～5番目の溝にセットし、上側のスプリングを弱めにきかせ、エプロンで押さえすぎないようにします。



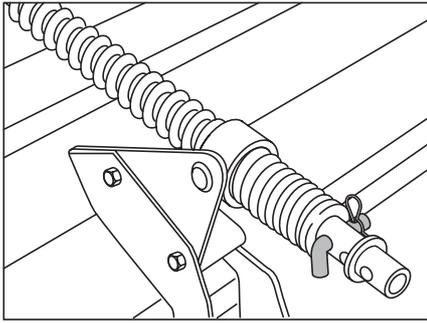
3. 碎土耕うん

ワンタッチホルダを上から4番目～7番目の溝にセットし、上側のスプリングをきかせ、エプロンの押さえを強くします。



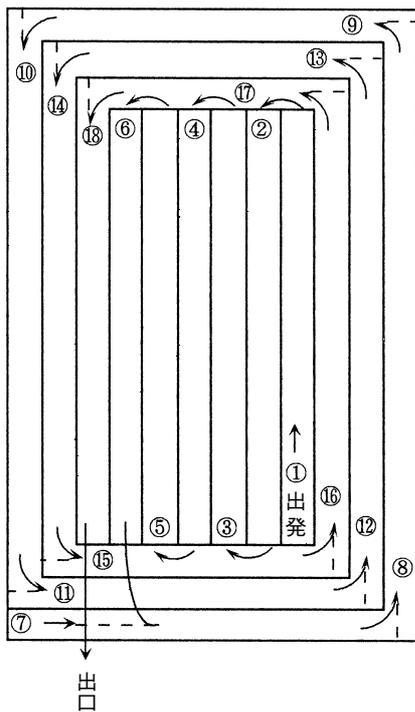
4. 石の多い圃場、湿田、粘土質圃場での耕うん

ワンタッチホルダを最上位置まで上げ、上側のスプリングをフリーにし、ピンを下から3番目～8番目の穴にセットして、エプロンを少し上げた状態にしますと、土はけがよく所要馬力も少なくなります。



5 圃場の回り方

一般に行われている隣接耕うんです。参考にしてください。あぜ際耕うんにおいては、サポートシューズがあぜ際（チェンケース側が内側）になる方向で行ってください。



耕うん爪の取付け

1 耕うん爪の種類と用途

1. 標準爪 (HS2395Z) ……一般耕うん碎土用

2 耕うん爪の取付け方法

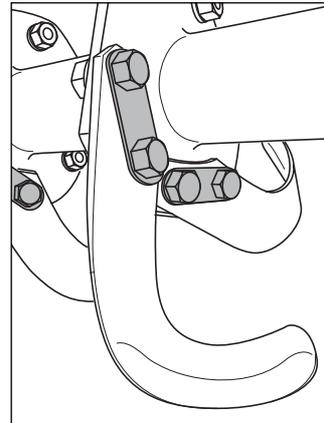
▲ 注意

1. 平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした場所で行ってください。
2. トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止して、油圧ロックを行い、かつ、台などを作業機の下に置き、作業機が落下しないようにしてから行ってください。
3. エプロンもしっかりと固定して落下しないようにしてから行ってください。
4. ボルト、ナットをゆるめたり、締め付ける場合は、24のメガネレンチが確実に入った状態で作業してください。
5. 作業は丈夫な手袋を着用して行ってください。

- ◆ 爪の交換は、一度に全部外して交換するのではなく、一本ずつ外して同じ形状刻印の爪を取付けていくと、配列の誤りはなくなります。
- ◆ 爪が摩耗してきますと、作業状態が悪くなってきます。早めにコバシ純正爪と交換してください。
- ◆ 爪の取付けには組みボルトを使用します。組みボルトは爪側から入れ、フランジ側にナットがくるようにしてください。緩めたり締め付ける場合はナットを回すようにしてください。

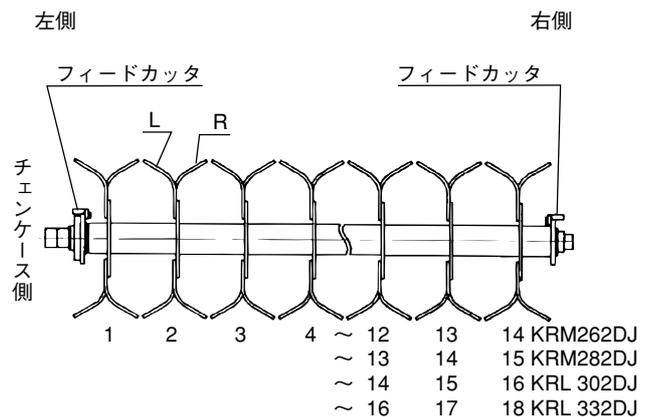
取扱上の注意

組みボルトのボルト側を回さないでください。ボルト側を回すと組みボルトが破損することがあります。



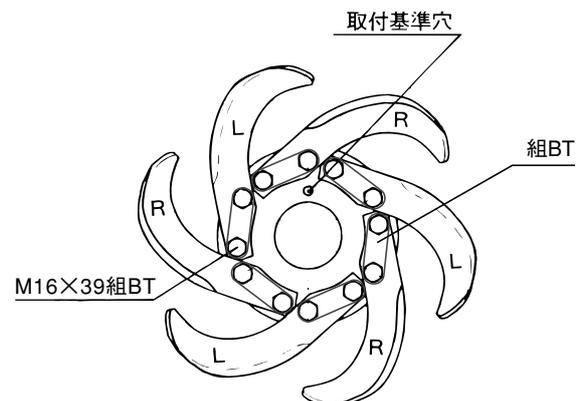
1. 爪配列とフランジ枚数

配列は山形配列になります。爪は、全てチェーンケース側のフランジ面に取付けます。



2. 爪の取付け

フランジの左側面にL, R各3本の耕うん爪を取付けます。この場合、取付基準穴のところにR爪を取付け。その他の爪は、下図のようにR, Lの順に取付けてください。



3. 耕うん爪及び取付けボルト本数

型 式	耕うん爪 HS2395Z		取付ボルト (P1.5 8T)	
	右	左	M16×39 組BT	M16 NT SW
KRM 262DJ	42	42	84	168
KRM 282DJ	45	45	90	180
KRL 302DJ	48	48	96	192
KRL 332DJ	54	54	108	216

保守・点検

機械を長持ちさせるためには、普段の保守、点検が大切です。

⚠ 注意

トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止して、油圧ロックを行い、かつ、台などを作業機の下に置き、作業機が落下しないようにしてから行ってください。

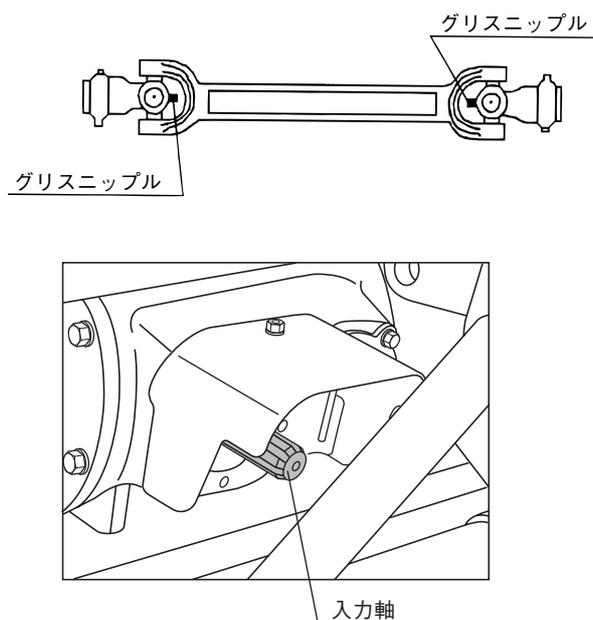
1. 作業終了後は、きれいに水洗いを行い、水分を拭き取っておいてください。

2. グリスの給油

① ジョイントは分解して、スリーブ（シャフト）のかみ合い部分に、グリスを塗布してください。

又、同時にグリスニップルに適量注入してください。

② トラクタのPTO軸と作業機の入力軸へもグリスを塗布し、格納する場合はキャップをかぶせて、サビないようにしてください。



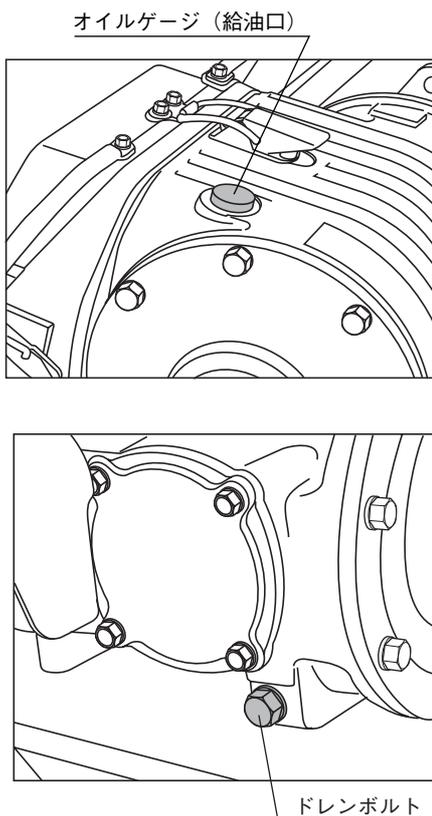
3. 給油と交換

下記の基準で実施してください。

点検項目	種類	オイル量		交換時間	
				1回目	2回目
ギヤケース	ギヤオイル #90	KRM-2DJ	2.5 ℓ	50時間	150時間
		KRL-2DJ	3.5 ℓ		
チェンケース	ギヤオイル #90	KRM-2DJ	2.2 ℓ	50時間	150時間
		KRL-2DJ	3.2 ℓ		
サポートハウジング	ギヤオイル #90	KRM-2DJ	0.1 ℓ	50時間	150時間
		KRL-2DJ			

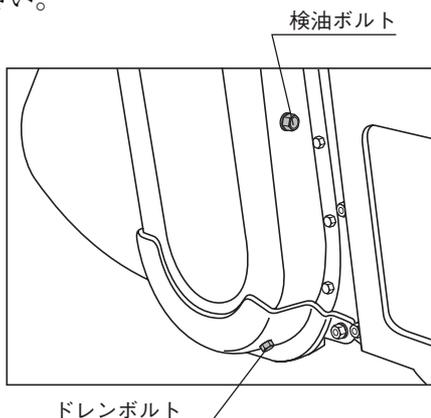
① ギヤークエースのオイル交換の仕方

ドレンボルトを外してオイルを出します。
(ドレンボルトはギヤークエース前側にあります。) オイルが抜けたら、ドレンボルトにシールワッシャを付け、しっかりと締め付けてください。
ギヤークエースオイルを給油口から規定量入れてください。

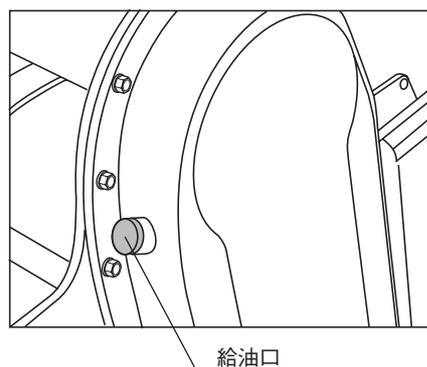


② チェンケースのオイル交換の仕方

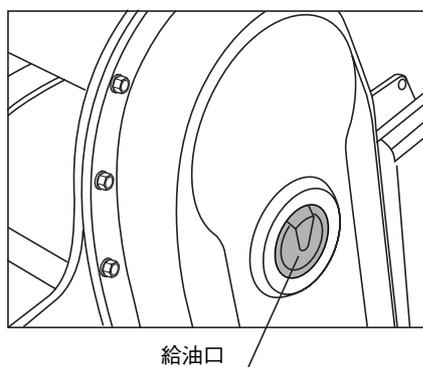
ドレンボルトを外してオイルを出します。
オイルが抜けたら、ドレンボルトをしっかりと締め付けてください。
ギヤークエースオイルを給油口から、規定量入れてください。



● KRM-2DJ

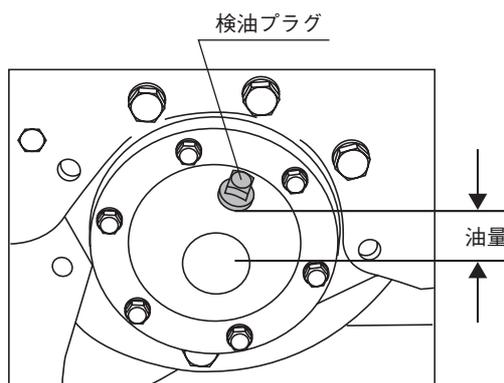


● KRL-2DJ



③ サポートハウジングのオイル交換の仕方

サポートシューズを外し、サポートカバーを外してオイルを出します。
オイルが抜けたらカバーをしてギヤークエースオイルを給油口から規定量 (0.1 l) 入れてください。



4. オイルシールの組み替え

整備などの目的でチェンケース等を分解される場合は、必ず新しいオイルシール、シールワッシャ、液状ガスケットと交換してください。オイルもれの原因となります。液状ガスケットはスリーボンド1208相当品を使用してください。

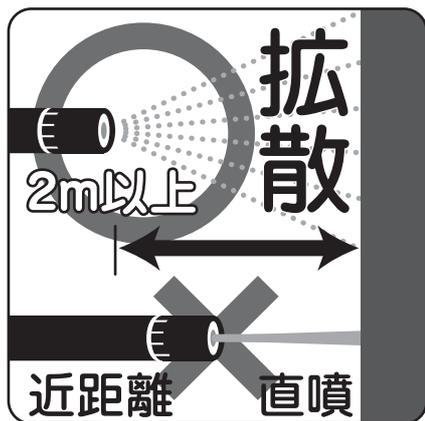
5. 洗車時の注意

高压洗車機の使用方法を誤ると人を怪我させたり、機械を破損・損傷・故障させることがありますので、高压洗車機の取扱説明書・ラベルに従って、正しく使用してください。

▲ 注意（高压洗車機）

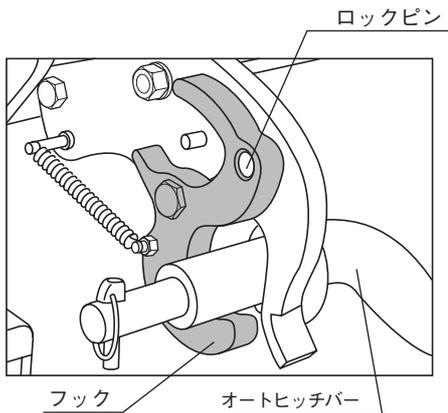
機械を損傷させないように洗車ノズルは拡散にし、2 m以上離して洗車してください。もし、直射や不適切に近距離から洗車すると機械の破損・損傷・故障や事故の原因になります。

- 例
- 1) シール・ラベルの剥がれ
 - 2) 樹脂類（カバーなど）の破損
 - 3) 塗装・メッキ皮膜の剥がれ



保管・格納

1. 平坦で地盤のしっかりした、屋根のある場所に格納してください。
2. ジョイントは、必ずチューブのオス側とメス側をいっぱいまで差し込んだ状態で保管してください。
3. 格納後はみだりに子供などが触れないような処置をしてください。
4. オートヒッチバーを作業機に取付けて保管する場合は、必ずロックピンが確実にフックに入り込んでロックされているか確認してください。



主要諸元

型 式		KRM 262DJ-2L	KRM 282DJ-2L
駆 動 方 法		サイドドライブ	
機 体 寸 法	全 長 (mm)	1801	1801
	全 幅 (mm)	3088	3288
	全 高 (mm)	994	994
機 体 質 量 (kg)		780	817
使用ジョイント		KU87	
適 応 ト ラ ク タ KW(PS)		47.8 ~ 58.8 (65 ~ 80)	
装 着 装 置 の 種 類		標準3P2形 2点オートヒッチ	
標 準 耕 幅 (cm)		260 (カゴローラ幅280)	280 (カゴローラ幅300)
標 準 耕 深 (cm)		12 ~ 16	
標 準 作 業 速 度 (km/h)		5 ~ 10	
入 力 軸 回 転 速 度 (r.p.m)		540	
変速の有無と変速方法		ギヤー交換	
耕うん爪取付方法		フランジタイプ	
耕うん爪の種類と本数	種 類	HS2395Z	HS2395Z
	本 数	L/R 各42本	L/R 各45本
耕うん爪回転外径		46	
耕 深 調 節 機 構		後方転圧輪	
耕 う ん 作 業 能 率 (分/10a)		4 ~ 7	3 ~ 6

型 式		KRL 302DJ-2L	KRL 332DJ-2L
駆 動 方 法		サイドドライブ	
機 体 寸 法	全 長 (mm)	1786	1786
	全 幅 (mm)	3488	3788
	全 高 (mm)	1186	1186
機 体 質 量 (kg)		988	1053
使用ジョイント		KU87	
適 応 ト ラ ク タ KW(PS)		58.8 ~ 84.6 (80 ~ 115)	
装 着 装 置 の 種 類		標準3P2形 2点オートヒッチ	
標 準 耕 幅 (cm)		300 (カゴローラ幅320)	330 (カゴローラ幅350)
標 準 耕 深 (cm)		12 ~ 16	
標 準 作 業 速 度 (km/h)		5 ~ 10	
入 力 軸 回 転 速 度 (r.p.m)		540	
変速の有無と変速方法		有、ギヤー交換	
耕うん爪取付方法		フランジタイプ	
耕うん爪の種類と本数	種 類	HS2395Z	HS2395Z
	本 数	L/R 各48本	L/R 各54本
耕うん爪回転外径		46	
耕 深 調 節 機 構		後方転圧輪	
耕 う ん 作 業 能 率 (分/10a)		3 ~ 6	3 ~ 5

※.この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

●KRM-2DJ 耕うん軸回転速度 (rpm)

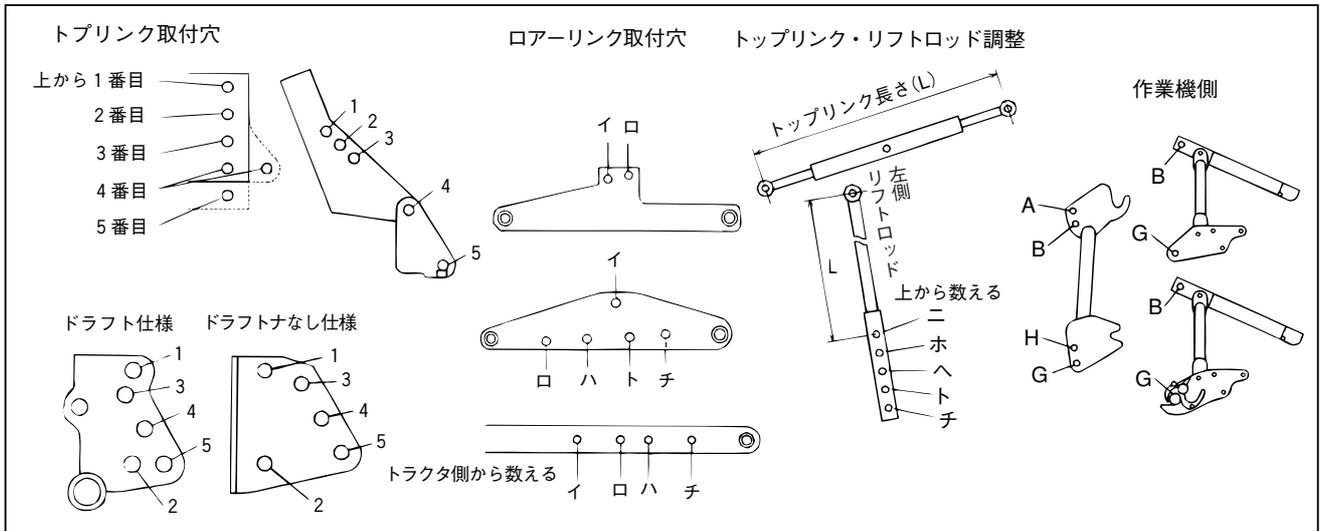
標 準	293(25 : 20)	187(20 : 25)	320(26 : 19)	171(19 : 26)	
オプション	129(16 : 29)	142(17 : 28)	156(18 : 27)	187(20 : 25)	224(22 : 23)
	424(29 : 16)	385(28 : 17)	351(27 : 18)	293(25 : 20)	245(23 : 22)

●KRL-2DJ 耕うん軸回転速度 (rpm)

標 準	273(26 : 23)	214(23 : 26)	323(28 : 21)	181(21 : 28)	
オプション	153(19 : 30)	167(20 : 29)	197(22 : 27)	232(24 : 25)	
	382(30 : 19)	351(29 : 20)	297(27 : 22)	252(25 : 24)	

トラクタ別装着表 (KRM-2DJ)

※この表はあくまでマッチング表であり、トラクタ適応馬力を示すものではありません。トラクタ適応馬力の範囲内で御使用ください。



トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法 (mm) KUC87	備考
	トップリンク取付穴	ローリンク取付穴	リフトロッド取付穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付穴	ヒッチピン取付穴		
GM 49・56・60・64・73	3	イ	へ	560	B	G		ジョイント異音時PTO切
GM 75・82・90	2	ロ	ニ	630	B	G		〃
M1-46・55・60S・65	1	イ	L=500	650	B	G		〃
M1-75	1	ロ	L=600	700	B	G		〃
MD 77・87・97 M1-85・100 M 90・100・85D・95D	1	ロ	L=615	730	B	G		〃
M 4830・4970・5270 M 5970・4950・5950	1	イ	L=500	650	B	G		〃
M 7530・8030	1	イ	L=600	700	B	G		〃
M 6970・7970・9570 M 6950・7950・9550	1	イ	L=600	670	B	G		〃
KM 90D・100D, MK80SK・100SK MK 70K(96)・80K(96)・90K(96)	1	ロ	L=725	620	B	G		〃
MK 100K(96)	1	イ	ホ L=725	700	B	G	KU97に交換	〃
MK 100K	1	ロ	ニ L=675	700	B	G	〃	〃
KG 1000	2	イ	ニ	700	B	G	〃	〃
KG 65・75	1	イ	ニ	600	B	G	〃	〃
KG 85・100	3	イ	ニ	700	B	G	〃	〃
M 6830	3	イ	L=540	580	B	G	〃	〃
M 8230・9030	1	イ	L=550	660	B	G	〃	〃
US 401・451・501・551・601 EF 650・655・660・665	1	イ	ホ	710	B	G	〃	〃
EG 765・775・782	2	イ	ホ	680	B	G	〃	〃
AF 655・660	3	イ	ホ	700	B	G	100	〃
AF 655A・660A	3	イ	へ	670	B	G	50	〃 青森仕様
AF 665	1	イ	ホ	730	B	G	〃	ジョイント異音時PTO切
AF 865・875・880・890 EF 880・890・895	1	イ	ニ	660	B	G	〃	〃
AF 520・620・720	1	イ	L=570	620	B	G	〃	〃
PF 82・92	1	イ	ホ	620	B	G	〃	〃

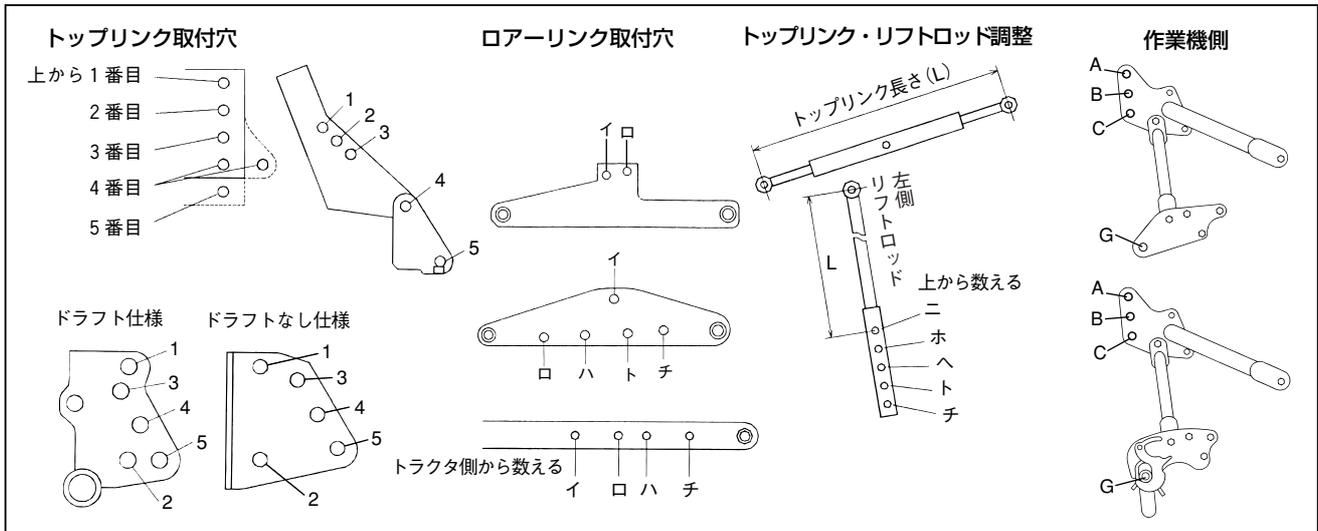
トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法 (mm)	備考
	トップリンク取付穴	ロアーリンク取付穴	リフトロッド取付穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付穴	ヒッチピン取付穴		
	KUC87							
F 50・60・70	1	□	L=530	620	B	G	50	ジョイント異音時PTO切
F 80・97	2	□	L=590	650	B	G		〃
F 705・805・905	1	□	ホ	600	B	G		〃
CT 551・651	1	イ	ホ	700	B	G		〃
CT 65・75	1	イ	L=640	600	B	G		〃
CT 80(A)・95(A)	1	イ	L=636	600	B	G		〃
CT 450・550・600	3	イ	へ	660	B	G	50	〃
CT 650・750・800・850・950・1050 CT 900・1000・801・1001	1	イ	ニ	660	B	G		〃
TR 45・55・63 TR 633	1	イ	L=510	600 [630]	B	G		トブリンク長の []内はマイコン 仕様を示す
T 750・850・950 T 751・851・951	1	イ	L=745	830	B	G		ジョイント異音時PTO切
T 855	1	イ	L=650	670	B	G		〃
T 883	1	イ	L=680	660	B	G		〃
T 953	2	イ	L=750	640	B	G		〃
T 70	1	イ	L=620	730	B	G		〃
T 80・98	1	ハ	L=710	790	B	G		〃
T 88	1	イ	L=640	660	B	G		〃
T 5020・6020・5010・6010	1	□	L=615	640	B	G		〃
T 7020A	1	□	L=635	630	B	G		〃
T 72・82・7020・7010	1	□	L=715	650	B	G		〃
T 82-10・82-21	1	□	L=795	710	B	G		〃
T 625・725, T 825H	1	□	L=675	630	B	G		〃
T 885WX・985WX	3	□	ホ L=715	720	B	G		〃
T 825G・885・985 T 8020・9520・8010・9510	1	□	ホ L=795	720	B	G		〃
TA-C 653・753	2	イ	ニ	680	B	G		〃
TA-C 853・1003	2	イ	ニ	700	B	G	KU97交換	〃
TA-C 65・75	1	イ	ニ	600	B	G		〃
TA-C 85・100	3	イ	ニ	700	B	G		〃
TJ 75・65・55	1	イ	ホ	560	B	G		〃
T 5085・5095	2	イ	L=650	660	B	G		〃
T 7085・7095	2	イ	L=670	660	B	G		〃
MT 520・620・720	1	イ	L=570	620	B	G		〃
GV 49・56・64・73	3	イ	へ	560	B	G		〃
GV 75・82・90	2	□	ニ	630	B	G		〃
GR 90・100・850・950	1	□	L=615	730	B	G		〃
MT 820・920	1	イ	ホ	620	B	G		〃
MT 46・52	1	□	ホ	560	B	G		〃
MT 70・80・90	1	□	ホ	600	B	G		〃
MT 551・601	1	イ	ホ	700	B	G	100	〃
MT 651・751・801・901	1	イ	ニ	660	B	G		〃
GCR 65・75	2	イ	ニ	680	B	G		〃
GCR 85・100	2	イ	ニ	700	B	G	KU97に交換	〃
MKM 65・75	1	イ	ニ	600	B	G		〃
MKM 85・100	2	イ	ニ	700	B	G		〃

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法 (mm)	備考
	トップリンク取付穴	ロアーリンク取付穴	リフトロッド取付穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付穴	ヒッチピン取付穴		
	KUC87							
MKM 750 MKM 750X	1	□	ホ L=725	620	B	G		ジョイント異音時PTO切
MKM 70(94)	1	□	ニ L=675	700	B	G	KU97に交換	〃
MKM 100(94)	1	□	ニ L=675	700	B	G		〃
MKM 70	1	イ	ニ L=675	720	B	G		〃
MKM 100	1	イ	ニ L=675	700	B	G		〃
V 46・52	1	□	ホ	560	B	G		〃
V 70・80・90, S 480	1	□	ホ	600	B	G		〃
X 45・50, S 445A	1	□	へ	590	B	G		〃
GX 49・56・64・73	3	イ	へ	560	B	G		〃
MK 80S・100S MK 70(96)・80(96)・90(96)	1	□	ホ L=725	620	B	G		〃
MK 100(96)	1	イ	ホ L=725	700	B	G	KU97に交換	〃
MK 70(94)・80(94)・90(94)	1	□	ニ L=675	650	B	G		〃
MK 100(94)	1	□	ニ L=675	700	B	G	KU97に交換	〃
MK 70・80・90	1	イ	ニ L=675	720	B	G	〃	〃
MK 100	1	イ	ニ L=675	700	B	G		〃
MF 281・481・492	1	イ	L=820	850	B	G		〃
MF 2210・2220・2230	1	イ	L=510	630	B	G		〃
MF 2430・2435・2440	1	イ	L=485	680	B	G		〃
MF 4225・4235・4245・4255	1	イ	L=745	830	B	G		〃
MF 350	1	イ	L=580	740	B	G		〃
MF 362・365・265	1	イ	L=620	730	B	G		〃
MF 382・396・375・390 MF 390T, MF 275・285・290	1	ハ	L=710	790	B	G		〃
MF 399	1	□	L=465	770	B	G		〃
MF 354F新・394F新	1	イ	L=450	570	B	G		〃
MF 374H・294H MF 254新・274新・294新	1	イ	L=500	560	B	G	50	〃
MF 354F・394F	1	イ	L=380	570	B	G		〃
MF 4445・4455・5435・5445・5455	2	イ	L=650	660	B	G		〃
MF 6445・6455	2	イ	L=670	660	B	G		〃
MF 6245	1	イ	L=650	670	B	G		〃
MF 6255	2	イ	L=680	660	B	G		〃
MF 6110・6120・6130・6140	1	イ	L=680	660	B	G		〃
MF 6150	2	イ	L=750	640	B	G		〃
MF 3050新・3060新・3065新	1	イ	L=640	660	B	G		〃
MF 3075	3	イ	L=700	650	B	G		〃
MF 3050・3060・3065・3070・3080	3	イ	L=710	660	B	G		〃
MF 675・690・698・699	1	ハ	L=710	790	B	G		〃
F 3930・4130・4630・5030 F 3910・4110・4610 F 3900・4100・4600	1	□	L=770	700	B	G	50	〃
TN 55・65・75 TN 60S-A・70S-A・75S-A	2	イ	L=610	670	B	G		〃
F 4635・4835・5635・6635・7635 TL 70・80・90, TL 90A・100A	1	イ	L=600	720	B	G		〃

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法 (mm)	備考
	トップリンク取付穴	ロアーリンク取付穴	リフトロッド取付穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付穴	ヒッチピン取付穴		
	KUC87							
TS 100A	2	□	L=820	760	B	G		ジョイント異音時PTO切
F 5640・6640・7740・7840 TS 90・100	1	□	L=810	660	B	G		トップリンク取付穴1個
F 8160	1	イ	L=700	770	B	G		ジョイント異音時PTO切
F 5110・5610・6410・6610	1	□	L=800	730	B	G		〃
F 6810・7610・7710・7810・7600	1	□	L=800	680	B	G		〃
F 2300GM	3	イ	へ	560	B	G		〃
F 2120	1	□	へ	590	B	G		〃
JD 5325・5425・5320・5420	1	イ	L=540	570	B	G		〃
JD 6100・6200・6300・6400 JD 6110・6210・6310 JD 6120・6220・6320	2	イ	L=770	630	B	G		〃
JD 1350・1550・1750・1850	1	イ	L=665	660	B	G		トプリング取付穴1個
JD 1350・1550・1750・1850	2	イ	L=665	660	B	G		トプリング取付穴3個
JD 2250・2650・2850 JD 1040・1140・1640・2040・2140	1	イ	L=645	660	B	G		トプリング取付穴1個
JD 2250・2650・2850	2	イ	L=645	660	B	G		トプリング取付穴3個
JD 2650・2850	1	イ	L=645	690	B	G		クイックタイプ
JD 3050・3040	1	イ	L=875	710	B	G		
MXU 100	2	□	L=820	760	B	G		
In 595・695・795・895	1	□	L=700	740	B	G		
In 5120	1	イ	L=630	870	B	G		
CX-L 65・75・85	1	イ	L=545	670	B	G		
CX 75・85・95 CX 60・70・80・90・100	2	イ	L=720	660	B	G	50	
MC 90・95・100 MXC 80・90・100, MX 100	2	イ	L=610	780	B	G		

トラクタ別装着表 (KRL-2DJ)

※この表はあくまでマッチング表であり、トラクタ適応馬力を示すものではありません。トラクタ適応馬力の範囲内で御使用ください。



トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法 (mm)		備考
	トップリンク取付穴	ローアリンク取付穴	リフトロッド取付穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付穴	ヒッチピン取付穴	KU87	KRE351用 KVD91A	
GM 56・60・64・73(PC)	1	イ	ホ	580	B	G		50	
GM 75D・82D・90D(PC) GM 75・82・90(PC)	1	ロ	ニ L=540	640	C	G			
M 6830	1	イ	L=520	580	B	G		50	
M 8230・9030	1	イ	ニ L=550	660	C	G			
M 90・100, M 85D・95D・105D MD 77・87・97, M1-85	1	ロ	L=600	730	C	G			
M 115・125, M 115D・125D MD 107・117,ZAS M1-100・115	1	ロ	L=615	730	C	G			
M1-55・60S・65	1	イ	L=500	640	C	G		50	
M1-75	1	ロ	L=580	700	C	G			
KG 1000・1200	1	イ	ニ	690	B	G			KVD96A に交換
KG 85・100	1	イ	ニ	690	B	G			
KG 120	1	イ	ニ	700	B	G			
KG 140・160	1	イ	ニ	780	B	G			
KM 90D・100D, MK 80SK・100SK MK 70K(96)・80K(96)・90K(96)	1	ロ	ニ L=725	620	C	G			
KM 120D, MK 120SK MK 100K(96)・110K(96)・120K(96)	1	イ	ニ L=725	700	C	G			KVD96A に交換
EG 765・775・782	1	イ	ホ	670	C	G			
AF 865・875・880・890 EF 880・890・895	1	イ	ニ L=570	660	C	G		50	
AF 520・620・720	1	イ	ニ L=570	610	C	G			
PF 82・92	1	ロ	ホ	630	C	G		50	
CT 650・750・850・950・1050 CT 801・1001	1	イ	ニ	660	C	G		50	
CT 1400・1600	1	イ	ニ	780	B	G			KVD96A に交換
CT 80(A)・95(A)	1	イ	ニ	600	C	G		50	
CT 120	1	イ	ニ	590	B	G		50	
F 705・805・905	1	ロ	ホ	590	C	G		50	
TJ 55・65・75	1	イ	ホ	560	C	G		50	
T 5085・5095・5110	2	イ	L=650	640	C	G			
T 7085・7095・7105	1	イ	L=670	650	A	G		50	

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切寸法 (mm)		備考
	トップリンク取付穴	ロアーリンク取付穴	リフトロッド取付穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付穴	ヒッチピン取付穴	KU87	KRE521用	
								KVD91A	
T 7110・7125・7135	1	イ	L=720	710	A	G			
T 7110V・7125V・7135V	1	イ	L=690	790	A	G			
T 751・851・951・750・850・950	1	イ	L=700	830	C	G			
T 1101・1100	1	イ	L=750	870	C	G			
T 70	1	イ	L=620	740	C	G			
T 80・98	1	ハ	L=680	790	C	G			
T 855	1	イ	L=630	660	C	G			
T 1055・1155	2	イ	L=650	650	B	G		50	
T 1255・1355	1	イ	L=700	720	B	G			
T 883	1	口	L=650	660	C	G			
T 953・1053・1153	1	口	L=720	660	C	G		50	
T 1253	1	口	L=770	720	B	G			
T 88	1	イ	L=620	660	C	G		50	
T 105・115	1	イ	L=670	660	C	G		50	
T 125	1	イ	L=710	720	B	G			
TA-C 853・1003・1203	1	イ	ニ	690	B	G		KVD96A に交換	
TA-C 85・100	1	イ	ニ	690	B	G			
TA-C 120	1	イ	ニ	700	B	G			
TA-C 140・160	1	イ	ニ	780	B	G		KVD96A に交換	
GV 56・64・73	1	イ	ホ	580	B	G		50	
GV 75・82・90	1	口	ニ L=540	640	C	G			
GR 90・100, GR 850・950・1050	1	口	L=600	730	C	G			
GR 115・125, GR 1150・1250	1	口	L=615	730	C	G			
MT 651・751・801・901	1	イ	ニ L=570	660	C	G		50	
MT 520・620・720	1	イ	ニ L=570	610	C	G			
MT 820・920	1	口	ホ	630	C	G		50	
MT 70・80・90	1	口	ホ	590	C	G		50	
MKM 85・100	1	イ	ニ	690	B	G			
MKM 120	1	イ	ニ	700	B	G			
GCR 140・160	1	イ	ニ	780	B	G		KVD96A に交換	
MKM 750X・1150X MKM 750	1	口	ニ L=725	620	C	G			
MKM 1450X・1650X・2050X MKM 1150・1450・1650・2050	1	イ	ニ L=725	700	C	G		KVD96A に交換	
V 70・80・90	1	口	ホ	590	C	G		50	
GX 560・640・730	1	イ	ホ	580	B	G		50	
MK 80S・100S MK 70(96)・80(96)・90(96)	1	口	ニ L=725	620	C	G			
MK120S・140S・160 MK 100(96)・120(96)・140(96) MK 160(96)・180(96)	1	イ	ニ L=725	700	C	G		KVD96A に交換	
MF 2430・2435・2440	1	イ	L=485	680	C	G			
MF 4225・4235・4245・4255	1	イ	L=700	830	C	G			
MF 4270	1	イ	L=750	870	C	G			
MF 365・362・265	1	イ	L=620	740	C	G			
MF 382・396・375・390 MF 275・285・290, MF 390T	1	ハ	L=680	790	C	G			
MF 399	1	口	L=465	780	C	G			
MF 394F新	1	イ	L=450	570	C	G		50	

トラクタ型式	トラクタ部の調整				作業機側		ジョイント切断寸法 (mm)		備考
	トップリンク取付穴	ロアーリンク取付穴	リフトロッド取付穴	トップリンク長さ(mm)	トップリンク取付穴	ヒッチピン取付穴	KU87	KRE351用 KVD91A	
MF 374H・394H	1	イ	L=500	560	C	G		50	
MF 4445・4455 MF 5435・5445・5455・5465	2	イ	L=650	640	C	G		50	
MF 6445・6455・6460・6470	1	イ	L=670	650	A	G		50	
MF 6465・6475・6480	1	イ	L=720	710	A	G			
MF 7465・7475・7480	1	イ	L=690	790	A	G			
MF 6245	1	イ	L=630	660	C	G			
MF 6255・6260・6265・6270	2	イ	L=650	650	B	G		50	
MF 6280・6290	1	イ	L=700	720	B	G			
MF 6110・6120・6130・6140	1	□	L=650	660	C	G			
MF 6150・6160・6170	1	□	L=720	660	C	G		50	
MF 6180・6190	1	□	L=770	720	B	G			
MF 3050新・3060新・3065新	1	イ	L=620	660	C	G		50	
MF 3075・3085・3095	1	イ	L=670	660	C	G		50	
MF 3115・3125	1	イ	L=710	720	B	G			
MF 3610・3630・3650 MF 3635・3645・3655 MF 8110・8120・8130	1	イ	L=800	760	A	G			
TL 70・80・90, TL 90A・100A TL 4635・4835・5635・6635・7635	1	イ	L=580	710	C	G			
TS 100A・110A・115A・125A・135A	1	□	L=800	790	C	G			
TVT 135・145・155	1	イ	L=750	760	B	G			
TM 115・125・135・150・165 TM 120・130・140・155 TM 8160・8260・8360・8560	1	イ	L=700	760	B	G			
TS 90・100・110・115 F 5640・6640・7740 F 7840・8240・8340	1	□	L=800	660 (620)	C (A)	G		50	()はトップリンク取付穴2個仕様の場合を示す
F 4130・4630・5030 F 4110・4610・4100・4600	1	□	L=750	710	C	G		50	
F 5110・5610・6410・6610・6710	1	□	L=790	730	C	G		50	
F 6810・7610・7710・7810・8210	1	□	L=790	690	C	G		50	
JD 5325・5425・5320・5420	1	イ	L=540	570	C	G		50	
JD 6120・6220・6320・6420 JD 6110・6120・6130・6140 JD 6520・6620・6820・6920 JD 6510・6610・6810・6910 JD 6100・6200・6300・6400	1	イ	L=730	650	C	G		50	
JD 2250・2650・2850 JD 2040・2140	1 (2)	イ	L=625	670	C	G		50	()はトップリンク取付穴3個仕様の場合を示す
JD 2650・2850	1	イ	L=645	690	C	G			クイックヒッチ仕様
JD 3050・3350・3040・3140	1	イ	L=850	710	C	G		50	
JD 3650	1	イ	L=750	740	C	G			CATⅢ型仕様
MXU 100・110・115・125・135	1	□	L=800	790	C	G			
MXM 120・130・140・155	1	イ	L=700	760	B	G			
CVX 1135・1145・1155	1	イ	L=750	760	B	G			
In 595・695・795・895	1	□	L=700	740	C	G			
In 5120・5130・5140・5150	1	イ	L=630	860	C	G			
CX-L 65・75・85	1	イ	L=545	670	C	G			
CX 75・85・95・105 CX 60・70・80・90・100	2	イ	L=720	660	C	G		50	
MC 95・105・115・120・135・90・100 MTX 120・135・150 MXC 80・90・100 MX 110・125・140・100・120・135	1	イ	L=610	800	B	G			
フェント 412	1	イ	L=650	790	B	G			

点検整備一覧表

時 間	項 目	参照ページ
新品使用始め	ギヤーケース、チェンケースのオイル量の点検	17
新品1時間使用后	全部のボルト、ナットを増し締め	16
新品50時間使用后	①ギヤーケース、チェンケースのオイル交換	27
	②サポートハウジングのオイル交換	27
毎日の作業前	①ギヤーケース、チェンケースのオイル量、オイル漏れの点検	17
	②耕うん爪の取付ボルトの増し締め	25
	③ジョイントのグリスニップルへのグリス注入	17
	④地面から上げて空転での、異音、異常振動等、異常の点検	18
毎日の作業後	①洗浄後、水分拭き取り	26
	②ボルト、ナット、ピン類の緩み、脱落の点検	16
	③耕うん爪の摩耗、折損の点検	25
	④入力軸へグリス塗布	26
	⑤ジョイントスプライン部へグリス塗布	26
	⑥可動部へ注油	17
150時間毎又は シーズン終了後	①ギヤーケースのオイルシール、パッキンの異常点検	27
	②ギヤーケース、チェンケースのオイル交換とオイルシール、 パッキンの異常点検	27
	③サポートハウジングのオイル交換とオイルシール、パッキンの 異常点検	27
	④ジョイントのシャフトへのグリス塗布	26
	⑤安全ラベルの剥がれの点検	5
	⑥無塗装部へのサビ止め	
	⑦消耗部品の早期交換	

異常診断一覧表

使用中あるいは使用後の点検時に下表の異常が発生した場合、そのままにしておきますと故障、事故の原因となります。

再使用せず、直ちに対策を行ってください。

本体各部	症 状	原 因	対 策
ギヤ ケース	異 音 の 発 生	ベアリングの損傷	ベアリング交換
		ギヤの損傷	ギヤ交換
		ベベルギヤのかみ合い不良	シムで調節
	オ イ ル 漏 れ	入力軸：軸受け部オイルシールの損傷	オイルシール交換
		液体パッキンの劣化	液体パッキン塗り直し
		パッキンの劣化、損傷	パッキン交換
		カバー取付ボルトのゆるみ	ボルト増し締め
	異常な高温の発生	オイル量の不足	オイル補給
		ベアリングの損傷	ベアリング交換
チェン ケース	異 音 の 発 生	チェーンテンショナの破損	テンショナ交換
		スプロケットの損傷	スプロケット交換
		ベアリングの損傷	ベアリング交換
	オ イ ル 漏 れ	軸付きシール、Oリングの劣化、損傷	軸付きシール、Oリングの交換
		カバー取付ボルトのゆるみ	ボルトの増し締め
	異常な高温の発生	オイル量の不足	オイル補給
		ベアリングの損傷	ベアリング交換

耕うん軸	異音の発生	軸受部のベアリングの損傷	ベアリング交換
		耕うん爪取付ボルトのゆるみ	ボルト締め付け
		耕うん爪の変形によるカバーとの干渉	耕うん爪交換
	振動の発生	耕うん爪軸の曲がり	耕うん爪軸交換
		耕うん爪、爪軸へのワラ、草等のかかり	ワラ、草等の除去
		耕うん爪の配列不良	爪配列の点検
	軸回転不良	チェンの切損	チェン交換
		駆動軸の折損	駆動軸交換
		ギヤの破損	ギヤ交換
	オイル漏れ	軸付きシールの損傷	軸付きシール交換
		パッキン、Oリングの劣化、損傷	パッキン、Oリング交換
	残耕の発生	耕うん爪の摩耗、折損	耕うん爪交換
耕うん爪の配列不良		爪配列の点検	
異常な土寄りの発生	耕うん爪の配列不良	爪配列の点検	
ジョイント	異音の発生	グリス切れ	グリスアップ
		ジョイント折れ角が不適格	マッチング姿勢の矯正
	たわみ発生	シャフトのかみ合い幅不足	長いものと交換
	スプライン部のガタ	ノックピンとヨークの摩耗	交換

用語解説

アタッチメント

作業機に後付けする部品

オートヒッチ

トラクタに乗ったままワンタッチで作業機を装着できるヒッチ

クリーブ

超低速の作業速度

耕 深

耕うんする深さ

3点リンク

トラクタに作業機を装着するための3点で支持を行うリンク

チェックチェン

トラクタに対し作業機が左右に振れる量を規制するチェン

トップリンク

作業機を装着する3点のリンクのうち、作業機の上部を吊り下げているリンク

揚 力

トラクタが作業機を上昇させるための力

ジョイント

トラクタの動力を作業機へ伝達するための軸

リフトロッド

トラクタが作業機を上げるためロアーリンクと連結しているアーム

リリーフ弁

油圧装置に規定以上の油の圧力がかかり油圧装置が破損することを防止する弁

ロアーリンク

作業機を装着する3点リンクのうち、作業機の下部を吊り下げているリンクで、左右1本ずつある

ポジションコントロールレバー

作業機を上げ下げするために使用するレバー

KOBASHI

小橋工業株式会社

〒701-0292 岡山市南区中畦684

☎ (086) 298-3112

インターネットでも弊社の情報をご覧いただけます。

<http://www.kobashikogyo.com>

■北海道営業所	〒071-1248	北海道上川郡鷹栖町8線西2号6番	☎ (0166) 49-0070
■東北営業所	〒024-0004	岩手県北上市村崎野13地割35-1	☎ (0197) 71-1160
■関東営業所	〒321-3325	栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台47-1	☎ (028) 687-1600
■新潟営業所	〒942-0041	新潟県上越市安江477-1	☎ (025) 546-7747
■岡山営業所	〒701-0165	岡山市北区大内田727	☎ (086) 250-1833
■九州営業所	〒861-2236	熊本県上益城郡益城町広崎1586-8 2F	☎ (096) 286-0202